

第十六條 第十三條、第十四條ノ規定又ハ第十五條ニ基テ命令ニ依ル荷車ノ積載量其ノ積荷ノ容積ノ制限ヲ超ユルモノニシテ分割スヘカラサル場合ハ出發地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 管理者ハ道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十八條 地方長官ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

警察官吏ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ一時道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十九條 道路ヲ掘鑿シ又ハ道路ニ物ヲ置ク場合ニハ繩張點燈其ノ他危險豫防ニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十條 沿道ノ土地ニ物ヲ堆積シ又ハ立テ置ク時ハ倒壞崩落ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十一條 道路又ハ沿道ノ土地ニ於テ工作物ヲ建設、撤去若ハ修繕シ又ハ其ノ他ノ作業ヲ爲ストキハ土砂、瓦石、竹木、金物等ノ道路ニ飛散又ハ墜落スルヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十二條 警察官署ハ道路及沿道ノ土地ニ於ケル工作物其ノ他ノ施設及物件ニ付其ノ占有者ニ對シ危險防止其ノ他交通保全ノ爲メ必要ナル裝置ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ基テ處分ニ違反シタル者ハ百圓以内ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十條 前條ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ハ其ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十一條 本令ニ規定スルモノノ外道路法第四十九條ノ

第二十三條 道路ニ於テ物ヲ運搬スルトキハ其ノ飛散、漏出、墜落及危險ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十四條 道路ニ於テ乘馬又ハ諸車運轉ノ練習ヲ爲スヘカラス但シ交通稀疎ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 交通頻繁ナル道路ニ於テ兒童、幼子ニ遊戯ヲ爲サシメ又ハ保護者ナクシテ幼兒ヲ歩行セシムヘカラス

第二十六條 道路ニ於テ煙火、空氣銃、吹矢ノ類ヲ弄シ又ハ投石、打球等危險ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第二十七條 第二條、第三條第一項、第二項、第四條乃至第八條第一項、第十條及第二十五條ノ規定ニ違反シタルモノ又ハ第三條第三項ノ規定ニ基テ禁止ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

第二十八條 第十一條、第十三條、第十四條、第十六條、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ違反シタルモノ、第十二條第一項ノ規定又ハ第十五條ノ規定ニ基テ命令ニ依ル輪帶輻ノ制限ニ違反シタル荷車ヲ使用シ若ハ同條ノ規定ニ基テ命令ニ依ル荷車ノ積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ニ違反シタルモノ又ハ第十七條、第十八條ノ規定ニ基テ禁止若ハ制限ニ違反シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

規定ニ基テ命令ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用スル荷車ノ輪帶輻ハ大正十五年十二月三十一日迄本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

○河川法

改正 明 二九、四、八 法七一
昭 二、三、三 同三四
大 九、三、三 同三〇

河川法

第一章 總 則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公
共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ
第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル
流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムル
トキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ
第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコト
ヲ得ス
第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタ
ルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ
外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生
スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケ
タルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シ
タルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク

ノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從
ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ
第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管
理スヘシ但シ主務大臣カ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シ
タルモノニ付必要ト認ムルトキ又ハ他府縣ノ利益ヲ保全
スル爲ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ之ヲ管理シ又
ハ其ノ維持修繕ヲ爲スコトヲ得
第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持
ヲ爲スノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料
徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシ
ムルコトヲ妨ケス
第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣
ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ
其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大
體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキ
ハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ
特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セ
シムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行

政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下

級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又

ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナ

スモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシ

テ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサ

シムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノ

アルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ

施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シ

タルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ

關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河

川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方

行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ

得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調

製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以

テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ

反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタ

ルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置ク

コトヲ要スルトキハ其ノ吏員、給料、手當、職務權限並

其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セム

トスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防ス

ル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固着シテ施設スル工作物

又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ

施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章

河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條

河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス
主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徴收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徴收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條

河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以內ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以內ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徴收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス
工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徴收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得
地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水

ル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條

第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ
前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條

第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條

河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條

營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條

河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シ

タル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

河川法及關係法令

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補助金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現存スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂停止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督スル地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得
行政廳ノ許可ニ附シタル條件ニ關シテモ本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ク得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得
第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得
前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス
第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ

命令ヲ以テ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴訟及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得
此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタルトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付
キ争アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ
事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ
得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起
算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下附スヘキ
補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ
通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スル
コトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三
箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六
箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ
規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタ
ル場合ヲ除クノ外願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳

ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附 則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及
時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以
内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 北海道ニ付テハ本法中府縣ニ關スル規定ハ道
ニ關シ、水利組合ニ關スル規定ハ土功組合ニ關シ之ヲ適
用ス

第六十七條 北海道ノ河川中主務大臣ノ指定スルモノニ關
シテハ當分ノ内第二十四條第一項及第四十二條第二項ノ
規定ニ拘ラス命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

○河川法施行規程

明 二九、六、三 勅二三六
改正 明 三二、六 勅二八六

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認
定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域
及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附
屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告
示スヘシ

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之
ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施
行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共
團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ
官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並其ノ區域及起工
年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘ
シ

理又ハ維持修繕ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準
シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂
礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキ
ハ少クとも五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數
量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、
沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セン
トスルトキハ少クとも五日前ニ又之ニ現在スル建設物其
ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クとも十五日前
ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫
算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣行ニ
依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷
地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相
續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其
ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前
條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣

ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ
公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スル
トキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行
者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨
ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金
ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳
ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ共ノ施行ノ際ニ現存スルモ
ノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケ
タルモノト看做ス但シ其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府
縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ
此ノ限ニ在ラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キ
テ發スル命令ニ牴觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前
ノ規程ニ依ル但シ徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ
河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘ
シ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關
シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五
日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ
關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰
則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、
第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ
依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但シ東京
府ニ在リテハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警
視廳令ヲ以テスルコトヲ得

○要塞地帶法(抜抄)

明治三二年七月一五日
法律第一〇五號

改正
大正四年
法律第一七號

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非レハ新
設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

○要塞地帶法施行規則(抜抄)

第三條 要塞地帶法第十條及第十六條ノ禁止ヲ解除シタル
場合ニ於テハ尙要塞司令官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 要塞司令官ノ許可ヲ得ムトスル者ハ左ニ掲クル事
項ヲ記シ其ノ作業地(航空ノ場合ニ在リテハ其ノ發着場)
ヲ管轄スル市町村長(朝鮮ニ在リテハ警察署長同分署長
臺灣ニ在リテハ廳長又ハ支廳長以下同シ)ノ與書ヲ得テ
當該要塞司令官ニ願出スヘシ

三 要塞地帶法第十條(解除シタル事項ニ限ル)乃至第十
二條並第十五條及第十六條(解除シタル事項ニ限ル)ニ
掲クルモノニ在リテハ其ノ目的、設計、位置及落成期
限(以下略)

○軍港要港規則(抜抄)

改正 昭 明 三三、四、三〇 海令七
四、六 同 四

第十八條 軍港要港境域内ニ於テ左ニ掲クル諸項ノ新營若
ハ變更ヲナサントスルモノアルトキハ地方長官ハ鎮守府
司令長官ニ協議シテ之ヲ處理スヘシ
一 棧橋ノ架設、埠頭ノ築造
二 河床ノ變更、河川海面ノ埋立浚渫、海岸ノ掘鑿、海
岸ニ於ケル石垣ノ築造
三 道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設、水底電
線ノ敷設

- 四 地盤ノ開鑿及埋築
- 五 森林ノ伐採
- 六 軍港要港ノ水域内ニ發著スヘキ海運ノ營業
- 七 漁業權ノ設定
- 八 浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置
- 九 第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル
七百五十間以内ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新
築

○宇品港域軍事取締法(抜抄)

昭 八、三、二九 法二九

第三條 宇品港域第一區内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル
行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ
命令ヲ以テ許可ヲ要セスト規定シタルトキハ此ノ限ニ在

- 一 棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、鐵道又ハ軌道ノ新
設、増設又ハ改修
- 二 水面ノ埋立又ハ干拓
- 三 鑛物ノ試掘若ハ探掘又ハ砂鑛ノ採取
- 四 航空

○宇品港域軍事取締法施行規則 (抜抄)

昭 八、五、一七 陸軍省令一九

- 第三條 左ニ掲クル行爲ニ付テハ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス
- 一 長三〇メートル以下ニシテ容易ニ撤去シ得ヘキ棧橋一時的使用ノ目的ヲ以テ敷設スル鐵道又ハ軌道及工場倉庫等内ニ敷設スル鐵道ノ新設、増設又ハ改修
 - 二 道路面ノ改修並ニ有效幅員三・六四メートル以下ノ道路(市道ニ在リテハ有效幅員五・四四メートル以下ノモノ)及此等ノ道路ニ架設スル橋梁ノ新設又ハ改修、
 - 三 地下埋設物ノ新設、増設又ハ改修及之ニ伴フ道路ノ改修
 - 四 建築面積三三〇平方メートル以下ノ住家及墓碑、形像ノ類並ニ此等ニ附屬スル倉庫(建築面積三三〇平方メートル以下ノモノ)、門戶、塙壁ノ新築、改築又ハ増築但シ現ニ存スル建築面積ヲ合算シタル建築面積三三〇平方メートルヲ超過スル場合ヲ除ク
 - 五 井ノ掘鑿、宅地内ニ於ケル土石ノ探掘又ハ地貌ノ變化ヲ來ササル土石ノ探掘

- 六 不可抗力ニ因リ形狀ヲ變更シタル土地又ハ物件ヲ原狀ニ復スル作業
- 七 爆發物又ハ容易ニ燃焼スヘキ物件ノ運搬積卸又ハ貯藏ニ關スル行爲中左ニ掲クルモノ
- イ 鐵道ニ依ル運搬又ハ其ノ積卸
- ロ 船舟ノ常用ヲ超過セサル數量ノ積卸又ハ積載
- ハ 貯藏又ハ鐵道ニ依ルモノ以外ノ運搬若ハ積卸ニシテ陸軍運輸部長ニ於テ指定スルモノ
- 八 稅關官吏ノ檢査ヲ受クル爲別表第二ニ於テ船舟ノ航行ニ付許可ヲ要セスト定メタル宇品島附近第一區ヲ經由シ稅關棧橋ニ發著スル船舟ノ航行若ハ繫泊又ハ同區域ニ出入スル爲運行上一時必要ナル船舟ノ航行
- 九 船舟ヲ使用セサル漁獵又ハ採藻
- 十 地目地類ノ變換、土地ノ分合、境界ノ確定又ハ家屋倉庫ノ新築、改築、増築ノ爲必要ナル測量
- 十一 船舟運航ノ際行船ニ必要ナル錘測

○國有鐵道建設規程

昭 四、七、一五 鐵令二
 昭 七、五、鐵令三
 同 七、九、同七
 同 八、二、同二

國有鐵道建設規程左ノ通定ム

第一章 總 則

- 第一條 國有鐵道ノ線路及車輛ノ構造ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得
- 一 丙線中特ニ簡易ナル構造ノ鐵道ニシテ別ニ定ムル規程ニ依ルトキ
 - 二 特種ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依ルコト能ハサルトキ
 - 三 其ノ他已ムコトヲ得サルトキ
- 【註】 軌條、車輪等カ磨耗シ又ハ車輛ノバネカ撓ミタル場合等ニ於テモ本規程ニ牴觸セサルコトヲ要ス本條但書第一號ニ於ケル特種ノ設計ヲ必要トスル鐵道トハ齒軌條式第三軌條式等ノ如キモノヲ謂フ

國有鐵道建設規程

第二條 本規程ノ適用ニ關シ線路區間ヲ甲線、乙線及丙線ノ三種ニ區別ス

前項ノ線路區間ノ種別ハ別表ニ依ル

第三條 軌間トハ軌條面ヨリ十六耗以内ノ距離ニ於ケル軌條頭部間ノ最短距離ヲ謂フ

第四條 本線路トハ列車ノ運轉ニ常用スル線路ヲ謂ヒ、側線トハ本線路ニ非サル線路ヲ謂フ

【註】 列車トハ停車場外ノ本線路ヲ進行スル目的ヲ以テ仕立テタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

停車場内ノ待避線及操車場内ニ於ケル發着線ノ如キモ本線路ナリ

第五條 停車場トハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 驛 列車ヲ停止シ旅客又ハ荷物ヲ取扱フ爲設ケラレタル場所

二 操車場 專ラ列車ノ組成又ハ車輛ノ入換ヲ爲ス爲設ケラレタル場所

三 信號場 驛ニ非スシテ列車ノ行違又ハ待合セヲ爲ス爲設ケラレタル場所

第六條 信號所トハ停車場ニ非スシテ手動又ハ半自動ノ常置信號機ヲ取扱フ爲設ケラレタル場所ヲ謂フ

【註】 信號場ハ構内ヲ有スレトモ信號所ハ之ヲ有セス

五三九

第七條 車輛ノ固定軸距トハ二以上ノ車軸ヲ有スル不撓性臺枠ニ於テ横游ヒヲ附セサル車軸中最前位ニ在ルモノト最後位ニ在ルモノトノ車軸中心間ノ水平距離ヲ謂フ

第二章 線路

第一節 軌間

第八條 軌間ハ一米〇六七トス

第九條 半徑八百米以下ノ曲線ニ於テハ前條ノ軌間ニ相當ノストラツクヲ附スルコトヲ要ス但シ三十耗ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノストラツクハ分岐ノ場合ヲ除キ五百米以上ノ緩和曲線アル場合ハ其ノ全長ニ於テ、其ノ他ノ場合ハ圓曲線端ヨリ五百米ノ長サニ於テ之ヲ遞減スルモノトス

【註】 本條第二項ニ於ケル其ノ他ノ場合トハ複心曲線又ハ側線ノ曲線ニ於ケル如キ場合ヲ謂フ

第十條 前二條ノ軌間ニ對スル公差ハ左ノ各號ニ依ルモノトス

- 一 轍又ノ場合ニ於テハ 增五耗、減三耗
- 二 其ノ他ノ場合ニ於テハ 增七耗、減四耗

【註】 本條ノ公差ハ軌條ノ磨耗、軌道敷設後ノ狂等ヲ加算セル最大限度ヲ示スモノナルヲ以テ軌道敷設ノ際ニ於テハ出來得ル限り之ヲ小ナラシムルモノトス

第十二條 側線ニ於ケル曲線ノ半徑八百米以上タルコトヲ要ス、但シ特別ノ場合ハ八十米迄之ヲ縮小スルコトヲ得

【註】 本條但書ハ運轉スル車輛ヲ制限スル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第十三條 本線路ニ於ケル直線ト曲線トハ分岐ノ場合ヲ除キ相當ノ緩和曲線ヲ以テ接續スルコトヲ要ス

前項ノ緩和曲線ノ長サハ第二十五條ニ依リ附スルカントノ左ノ倍數ヲ下ルコトヲ得ス

- 甲線 乙線 丙線
- 六百倍 四百五十倍 三百倍

第十四條 本線路ニ於ケル反對方向ノ曲線(分岐ノ場合ヲ除ク)ニ於テハ緩和曲線ノ間ニ十米以上相當ノ長サノ直線ヲ挿入スルコトヲ要ス

第三節 勾配

第十五條 本線路ニ於ケル勾配ハ左ノ限度ヨリ急ナラサルコトヲ要ス、但シ乙線ニ在リテハ特別ノ場合ハ其ノ限度ヲ千分ノ三十、電車專用線路ニ在リテハ線路區間ノ種別ヲ問ハス其ノ限度ヲ千分ノ三十五トス

- 甲線 乙線 丙線

第二節 曲線

第十一條 本線路ニ於ケル曲線ノ半徑ハ左ノ大サ以上タルコトヲ要ス

- 甲線 乙線 丙線
- 三百米 二百五十米 二百米

【特別ノ線路】

前項ノ半徑ハ分岐ニ附帶スル場合ニ於テ左ノ大サ迄之ヲ縮小スルコトヲ得

- 甲線 乙線 丙線
- 百六十米 百六十米 百米

停車場ニ於ケル本線路ニシテ乗降場ニ沿フ部分ノ曲線ノ半徑ハ左ノ大サ以上タルコトヲ要ス、但シ乗降場兩端ノ部分ニ限り之ニ依ラサルコトヲ得

- 甲線 乙線 丙線
- 五百米 四百米 三百米

【註】 分岐ニ附帶スル曲線トハ分岐内ニ含マルル曲線及分岐ノ爲テニ其ノ前後ニ生スル曲線ヲ謂フモノニシテ後者ノ半徑ハ成ル可ク大ナラシムヘキモノトス

千分ノ二十五 千分ノ二十五 千分ノ三十五

【特別ノ線路】

千分ノ二十五ヨリ急ナル勾配ニシテ曲線ヲ伴フ場合ニ在リテハ前項ノ限度ヲ超エサル様相當ノ曲線補正ヲ爲スコトヲ要ス

停車場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ其ノ本線路ノ最端轉轍器(最端轉轍器外カ下リ勾配ナル場合ニハ之ヨリ外方二十米ノ箇所)ノ間及列車ノ停止區域ニ於テ千分ノ三・五ヨリ急ナラサルコトヲ要ス但シ車輛ノ解結ヲ爲ササル本線路ニシテ列車ノ發着ニ支障ナキ場合ハ千分ノ十二到ルコトヲ得

側線ノ勾配モ亦千分ノ三・五ヨリ急ナラサルコトヲ要ス但シ車輛ヲ留置セサル側線ハ之ニ依ラサルコトヲ得

【註】 本條第三項ノ但書ハ電車專用驛、簡易ナル驛ノ如キ場合ニ之ヲ適用ス

第十六條 線路ノ勾配變化スル箇所ニハ勾配ノ變化カ千分ノ十以上ノ場合ニ於テ左ノ大サ以上ノ半徑ヲ有スル縱曲線ヲ挿入スルコトヲ要ス

- 半徑八百米以下ノ曲線ノ場合 四千米
- 其ノ他ノ場合 三千米

第二十六條 築堤又ハ切取ニ於ケル施工基面ノ幅(側溝ヲ除ク)ハ軌道中心ヨリ外緣迄左ノ寸法以上タルコトヲ要ス

甲線 乙線 丙線
二米四 二米二五 二米一
前項ノ幅ハ道床ノ幅其ノ他線路ノ狀況ニ依リ相當之ヲ擴大スルコトヲ要ス

第八節 橋 梁

第二十七條 本線路ニ於ケル支間三米五以上ノ橋桁ハ木造ト爲スコトヲ得ス

第二十八條 交通頻繁ナル道路又ハ河川ニ架設スル橋梁ハ軌道中心ヨリ左右各一米七五以上軌道下ヲ蓋フコトヲ要ス

第二十九條 本線路ニ於ケル橋梁ノ負擔力ハ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ニ依ルモノタルコトヲ要ス但シ電車專用線路ニ對シテハ線路區間ノ種別ヲ問ハスKS-12ニ依ルモノトス

甲線 KS-18 乙線 KS-15 丙線 KS-12
前項ノ負擔力ハ急勾配ヲ含ム運轉區間其ノ他ニシテ特ニ必要アル場合ニ於テハ乙線ニ在リテハ KS-18 丙線及電車專用線路ニ在リテハ KS-15ニ依ルモノトス

第九節 架空電車線
第三十條 架空電車線ノ電氣方式ハ直流式トシ千五百ボルトヲ標準トス

第三十一條 架空電車線ノ高サハ軌條面ヨリ五千二百耗ヲ標準トス
前項ノ高サハ橋梁、隧道、雪覆及跨線橋ニ於テハ四千五百五十耗迄、乗降場上家庇ノ部分ニ於テハ四千七百耗迄之ヲ減シ又停車場構内ニ於テハ必要ニ應シ五千五百耗迄之ヲ増スコトヲ得

第三十二條 架空電車線ハ軌條面ニ直角ナル軌道中心面ヨリ左右各二百五十耗以上ノ偏倚ナキコトヲ要ス

第三十三條 架空電車線ノ軌條面ニ對スル勾配ハ本線路ニ在リテハ千分ノ五、側線ニ在リテハ千分ノ十五ヨリ急ナラサルコトヲ要ス

第十節 停車場

第三十四條 停車場ニ於ケル列車ノ發着スル本線路(旅客列車專用線路ヲ除ク)ノ有效長ハ左ノ長サヲ標準トス但シ線路ノ狀況ニ依リ之ニ依ラサルコトヲ得

甲線 三百八十米乃 二百五十米乃 至二百五十米
乙線 二百五十米乃 至三百八十米
丙線 二百五十米乃 至二百五十米

第三十五條 旅客ヲ取扱フ驛ニハ乗降場、待合所、便所等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 荷物ヲ取扱フ驛ニハ荷物積卸場、荷物庫等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 乗降場及荷物積卸場ノ緣端ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ一米五六タルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ曲線ニ沿フ乗降場及荷物積卸場ニ於テハ曲線半徑八百米ヨリ大ナル場合ニ於テモ第十九條ニ準シ之ヲ増スコトヲ要ス

乗降場ノ幅ハ兩面ヲ使用スルモノハ三米以上、其ノ他ノモノハ二米以上タルコトヲ要ス

乗降場ノ高サハ軌條面ヨリ七百六十耗トス但シ電車專用ノ場合ニ於テハ千百耗、電車及其ノ他ノ列車ニ共用スル場合ニ於テハ九百二十耗トス

乗降場ニ在ル柱類ト乗降場緣端トノ距離ハ一米以上タルコトヲ要ス

乗降場ニ在ル本家、跨線橋口、地下道口、待合所、便所等ト乗降場緣端トノ距離ハ一米五以上タルコトヲ要ス

荷物積卸場ノ高サハ軌條面ヨリ九百六十耗トス但シ手小荷物專用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ七百六十耗、小口扱貨物専用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ千二十耗トス

前項ノ高サハ特別ノ場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得

第三十八條 地方ノ狀況ニ依リ特ニ前三條ノ規定ニ依ラサル驛ヲ設ケルコトヲ得

第三十九條 機關車用轉車臺ノ長サハ十二米乃至二十米トス

貨車用ノ轉車臺及遷車臺ノ長サハ五米以上トス

第四十條 本線路ニ於ケル分岐ハ停車場内又ハ信號所ニ於テ爲スコトヲ要ス但シ側線ヲ分岐スル場合又ハ貨物列車ノミヲ運轉スル本線路ニ於ケル分岐ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限り相當ノ保安設備ヲ爲シ之ニ依ラサルコトヲ得

第四十一條 本線路ハ停車場ニ於テ相當ノ保安設備アル場合ヲ除キ本線路又ハ他ノ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ス但シ本線路カ貨物列車ノミヲ運轉スル場合又ハ他ノ鐵道、軌道カ人力若ハ馬力ヲ動力トスル場合ニ於テ相當ノ保安設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二節 常置信號機

第四十二條 停車場ニハ場内信號機ヲ設ケルコトヲ要ス但シ列車ノ進路ニ轉轍器ナキ場合又ハ轉轍器カ當時鎖錠セラルル場合ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

第四十三條 停車場ニハ出發信號機ヲ設クルコトヲ通例トス

第四十四條 停車場ニハ必要ニ應シ入換信號機及誘導信號機ヲ設クルモノトス

第四十五條 閉塞區間ノ始點ニハ閉塞信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ其ノ始點カ停車場内ニ在リテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

一 出發信號機又ハ場内信號機ノ設ケアルトキ

二 出發信號機ヲ設ケル必要ナキトキ

第四十六條 停車場外ニ於テ可動橋、線路ノ交叉其ノ他特ニ防護ヲ要スル地點ニハ必要ニ應シ掩護信號機ヲ設クルモノトス

第四十七條 場内信號機、閉塞信號機及掩護信號機ニ對シテハ其ノ前方相當ノ距離ニ於テ遠方信號機ヲ設ケルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

一 場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機カ停止信號ヲ現示スル場合其ノ前方相當ノ距離ニ於テ之ヲ表示スル他ノ常置信號機ノ設ケアルトキ

二 場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ノ信號現示ヲ二百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識スル必要ナキ

當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏ミ入ル虞アル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠等ヲ設ケルコトヲ要ス

第五十四條 列車ヲ避クルニ困難ナル隧道、橋梁其ノ他ニハ待避所ヲ設ケルコトヲ要ス

前項ノ待避所ハ五十米以内毎ニ之ヲ設ケルコトヲ要ス

第十四節 線路標

第五十五條 線路ニハ左ノ標ヲ設ケルコトヲ要ス

一 一軒毎ニ其ノ距離ヲ示ス標

二 勾配ノ變更スル箇所ニハ其ノ勾配ヲ示ス標

三 本線路ヨリ分岐スル箇所ニハ車輛ノ接觸限界ヲ示ス

標

四 列車ノ運轉上特ニ注意ヲ要スル箇所ニハ必要ニ應シ之ヲ示ス標

五 踏切道ニハ必要ニ應シ通行ノ注意ヲ惹クヘキ標

第三章 車輛

第一節 車輛限界

第五十六條 車輛ハ左ノ各號ニ掲ケルモノヲ除キ直線軌道上正位ニ於テ第四圖ニ示ス車輛限界外ニ出テサルモノタルコトヲ要ス

一 タイヤノ幅以内ニ於ケル車輛ノ部分

トキ

三 丙線ニ限リ場内信號機、閉塞信號機又ハ掩護信號機ノ信號現示ヲ四百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識シ得ルトキ

四 特殊ノ事由アルトキ

出發信號機ニ對シテハ必要ニ應シ遠方信號機ヲ設ケルモノトス

第十三節 保安設備

第四十八條 相互關係ヲ有スル常置信號機及轉轍器ハ聯動ノ裝置ト爲スコトヲ要ス但シ本線路ニ關セサルモノ、常時鎖錠セラルル轉轍器及使用稀ナル背向轉轍器ニ付テハ之ニ依ラサルコトヲ得

第四十九條 軌道ノ終端ニハ相當ノ車止裝置ヲ設ケルコトヲ要ス

第五十條 車輛カ本線路ニ逸走シ又ハ列車カ過走シテ危害ヲ生スル虞アル箇所ニハ相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 停車場及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス但シ驛員ヲ配置セサル停車場ニ在リテハ之ヲ爲ササルコトヲ得

第五十二條 交通頻繁ナル踏切道ニ對シテハ門扉其ノ他相

二 停止中ニ限リ開閉スル扉類ニシテ開キタル場合ニ於ケルモノ

三 雪掻裝置、郵便受渡器、クレーン、其ノ他特種ノ裝置ニシテ使用スル場合ニ於ケルモノ

四 齒軌條用齒車

【註】 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ屋上裝置ハ車輛限界ノ示ス所ニ依リ其ノ基礎限界外ニ出

ツルコトヲ得レトモ架空電車線ニ依ル運轉區間以外ノ區間ヲ運轉スル場合ヲ考慮シテ屋上裝置ヲ容易ニ取外シ又ハ集電裝置ヲ折疊ミテ基礎限界内ニ

收メ得ル構造ト爲スヘキモノトス

第五十七條 車輛ハ曲線軌道上正位ニ於テ其中心線カ軌道

中心線ヨリ偏倚シタル場合ニ於テモ其ノ各部カ前條ノ車輛限界ノ幅ニ第十九條ニ依ルモノヲ各側ニ於テ加算シタル

限界外ニ出テサルモノタルコトヲ要ス

【註】 本條ノ規定ハ車輛カ曲線軌道上ニ於テ軌道ニ對

シ左右ニ偏倚シタル場合ニ其ノ各部ノ占ムル位置

ヲ制限シタルモノニシテ曲線ニ於ケル建築限界ノ

擴大寸法ハ車體ノ長サ約十九米、ボギー中心間

ノ距離約十三米四ナルボギー車ノ兩端部及中央部

ニ於ケル偏倚ニ相當スルモノナリ故ニ車體ノ長サ

及ボギー中心間ノ距離ノ關係上偏倚カヨリ大トナルヘキ車輛ヲ製作スル場合ニハ本條ノ限界外ニ出テサル様其ノ幅ニ付考慮スヘキモノトス

第二節 車輛ノ重量

第五十八條 機關車(炭水車ヲ含ム)ハ之ヲ二輛連結シ長サ一米ニ付甲線及乙線ニ在リテハ五噸、丙線ニ在リテハ四噸ノ等布活荷重ヲ牽引スル場合ニ軌道及橋梁ニ對シ第三圖ニ示ス左ノ記號ノ標準活荷重ヨリ大ナル影響ヲ與ヘサルモノタルコトヲ要ス

甲線 乙線 丙線
軌道ニ對シ K-16 K-15 K-13

橋梁ニ對シ K-16 K-15 K-12
(線路ノ狀況ニ依リ K-18)

【註】 本條ハ機關車ノ車輛ノ軌條ニ對スル壓力及其ノ配置等ノ軌道及梁橋ニ對スル影響ノ最大限度ヲ規定セルモノニシテ機關車ノ製作ニ當リテハ車輛ノ軌條ニ對スル壓力ノミナラス輪軸ノ配置等ヲモ考慮シテ本條ノ限度ヲ超エサル様ニ爲スヘキモノナ

第六十一條

客貨車ノ車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十三噸以下タルコトヲ標準トシ十四噸ニ至ルコトヲ得但シ其ノ重量ハ兩端連結器ノ連結面間ノ距離一米ニ付平均五噸以下タルコトヲ要ス

第六十二條 前條ニ規定スル限度ハ運轉區間又ハ連結位置ニ制限ヲ有スル車輛ニ付テハ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ超過スルコトヲ得

【註】 本條ハ電動車、氣動車、石炭車、冷蔵車、特種貨車其ノ他特ニ重量大ナル客貨車ニ對スル規定ナリ

第三節 輪 軸

第六十三條 輪軸ノ配置及之ニ關スル車輛各部ノ構造ハ十ニ耗ノストラックヲ有スル半徑百米ノ曲線ヲ通過シ得ルモノタルコトヲ要ス

第六十四條 固定軸距ハ四米六以下タルコトヲ要ス

第六十五條 車輪ノ直徑ハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十ニ耗ノ距離ニ於ケル踏面ニ於テ測リ七百三十耗以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得

【註】 第五圖參照

第六十六條 タイヤ(タイヤナキ場合ハリム)ノ幅ハ百二

甲線ニ於テ線路ノ狀況ニ依リ K-18 及 K-18 トアルハ特定ノ區間ニ限り使用スル目的ヲ以テ製作スル場合ヲ指スモノトス

第五十九條 機關車ノ車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ左ノ大サ以下タルコトヲ要ス
甲線 乙線 丙線
十六噸 十五噸 十三噸

(線路ノ狀況ニ依リ十八噸)

前項ノ壓力ハ第三圖ニ示ス動輪ノ不釣合遠心力、車輛ノバネ下重量等ヲ考慮シテ之ヲ増減スヘキモノトス但シ増ス場合ニ於テハ百分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十條 前二條ノ限度ハ乙線及丙線ノ急勾配ヲ含ム運轉區間其ノ他ニシテ特ニ必要アル場合ニ於テハ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ左ノ限度迄増スコトヲ得
乙線 丙線
標準活荷重 { 軌道ニ對シ K-16 K-15
橋梁ニ對シ K-16 K-15

車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力 十六噸 十五噸

十耗以上百五十耗以下タルコトヲ要ス

タイヤ(タイヤナキ場合ハリム)一對ノ内面距離ハ九百八十八耗以上九百九十四耗以下トシ九百九十耗ヲ以テ標準トス

【註】 第五圖參照

第六十七條 輪軸ノ高サハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十ニ耗ノ距離ニ於ケル踏面ヨリ測リ二十五耗以上三十五耗以下タルコトヲ要ス

車輪一對ノ中心線ヨリ輪軸外面迄ノ距離ハ前項ノ踏面ヨリ十耗ノ下位ニ於テ五百十六耗以上五百二十七耗以下タルコトヲ要ス

【註】 第五圖參照

第四節 車輛連結器

第六十八條 車輛ハ兩端ニ自動連結器ヲ備フルコトヲ要ス

第六十九條 自動連結器ハ其ノ連結部ニ於テ第六圖ニ示ス寸法ノ輪廓ヲ有シ又ハ之ト相互連結シテ使用シ得ルモノタルコトヲ要ス但シ電車ノ連結器ハ之ニ依ラサルコトヲ得

第七十條 自動連結器ノ連結面ノ中心ノ高サハ車輛停止中ニ於テ軌條面上七百九十耗以上八百九十耗以下タルコトヲ要ス

自動連結器ノ肘ハ二百二十五耗以上ノ高サヲ有スルモノタルコトヲ要ス

第五節 制動機

第七十一條 車輛ニハ貫通制動機ヲ備フルコトヲ要ス但シ緩急車ニ非サル貨車及特種ノ車輛ニハ制動管ノミヲ備ヘ貫通制動機ヲ備ヘサルコトヲ得

第七十二條 貫通制動機ノ制輪子ニ作用スル壓力(ダイヤニ制輪子ヲ使用セサル制動機ニ在リテハ之ニ換算シタル壓力)ハ制動車輪ノ軌條ニ對スル壓力ニ對シ左ノ割合以上タルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ハ之ニ依ラサルコトヲ得

一 機關車(タンク機關車ニ在リテハ積載石炭及水量カ規定量ノ二分ノ一ノ場合、其ノ他ノ機關車ニ在リテハ運轉整備ノ場合) 百分ノ五十

二 炭水車(空車ノ場合) 百分ノ八十

三 客貨車(空車ノ場合) 百分ノ七十

第七十三條 貫通制動機ハ制動管カ切斷シタル場合ニ於テハ自動的ニ制動スルモノタルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ニ在リテハ之ニ依ラサルコトヲ得

第七十四條 運轉室ヲ有スル車輛及緩急車ニハ貫通制動機ヲ作用セシメ得ル裝置及制動管ノ壓力ヲ示ス裝置ヲ爲ス

第七十九條 運轉室ヲ有スル車輛ニハ氣笛又ハ之ニ相當スル合圖ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

第八十條 客室ノ床面積ハ旅客定員一人ニ付〇・三平方米以上タルコトヲ要ス

第八十一條 旅客ノ使用スル室ニハ通風、點燈及必要ニ應シテ暖房ノ裝置ヲ爲スモノトス

第八十二條 客車ノ側面ニ在ル外開戸及引戸ニハ二重ノ閉裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ特種ノ裝置ヲ有スル場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得

【註】本條但書ニ於テ特種ノ裝置トハ自動閉裝置ノ如キヲ謂フ

第七節 車輛ノ標記

第八十三條 機關車ニハ番號ヲ標記スルコトヲ要ス

第八十四條 客貨車ニハ左ノ事項ヲ標記スルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ニ在リテハ之ニ依ラサルコトヲ得

一 國有鐵道ノ記號

二 記號及番號

三 自重

四 客車ニハ等級及旅客定員

五 荷物車・郵便車及貨車ニハ積載量

附 則

コトヲ要ス

第七十五條 運轉室ヲ有スル車輛(テンダー機關車ヲ除ク)炭水車及緩急車ニハ他ノ制動機ヲ備フル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス

第七十六條 手用制動機ノ制輪子ニ作用スル壓力ハ制動車輪ノ軌條ニ對スル壓力(空車ノ場合)ニ對シ百分ノ二十以上タルコトヲ要ス

第六節 車輛ノ裝置

第七十七條 蒸氣機關車及蒸氣動車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

一 二箇ノ獨立シタル給水器

二 罐内ノ水位ヲ認ムヘキ二箇ノ獨立シタル裝置

三 罐ノ安全瓣

四 罐ノ壓力計

五 火粉又ハ燃滓ノ散出ヲ防ク裝置

本號ノ裝置ハ其ノ使用スル燃料ノ性質ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第七十八條 電氣機關車及電動車ニハ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス

一 自動遮斷裝置

二 架空電車線ニ依ル場合ニ於テハ避雷器

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年十月十四日鐵道省令第二號國有鐵道建設規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行前工事ニ着手シ又ハ竣工シタル線路其ノ他ノ建造物、車輛等ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ之ヲ改築又ハ改造シ終ル迄ハ第一條但書ニ依ルモノト看做ス

本令ノ適用ニ當リ機關車ノ運用上直ニ第五十八條及第五十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ速度ニ制限ヲ加ヘ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ當該條項ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

當該線路ニ第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車輛ヲ運轉スル時期迄ハ乗降場及荷物積卸場ノ緣端ト車輛ノ踏段又ハ床トノ空隙ヲ小ナラシムル爲一時第三十七條第一項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス

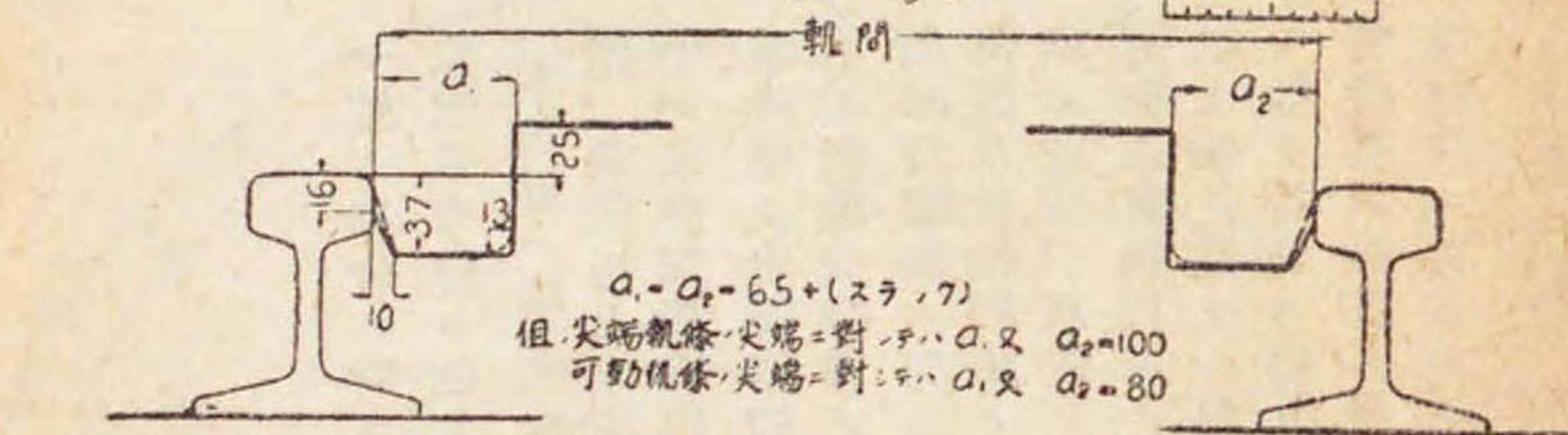
【註】第五項ヲ適用スル場合ハ將來乗降場及荷物積卸場ノ改築又ハ之ニ沿フ軌道ノ移轉ニ依リ第三十七條第一項ノ規定ニ依ルコトヲ得ル様考慮シ置クコトヲ要ス

第一圖ノ二

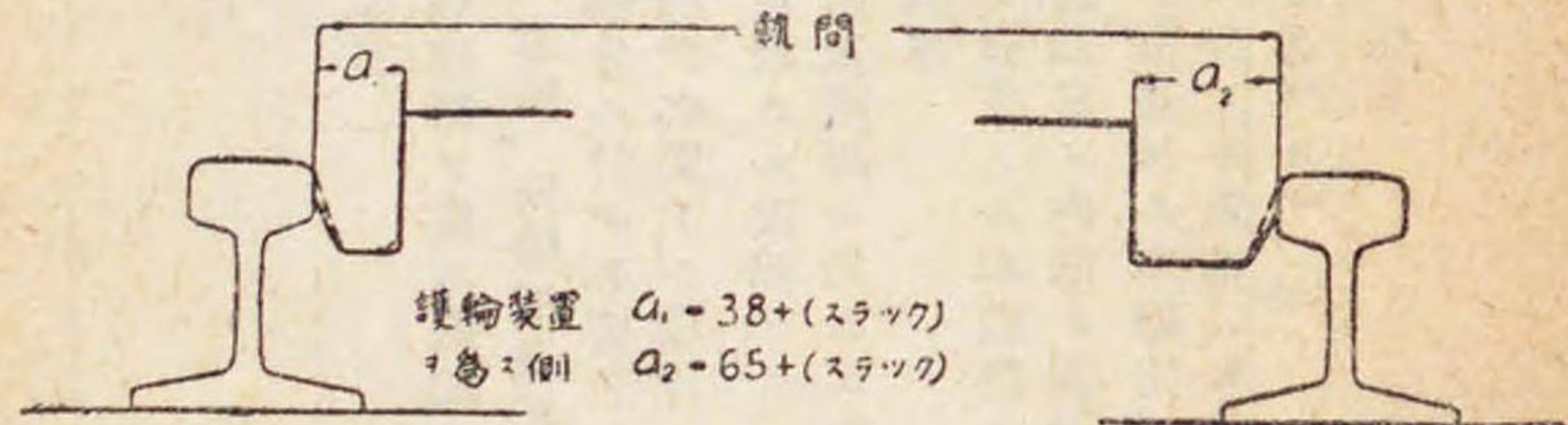
a_1 及 a_2 部分ニ對スル限界

一般ノ場合

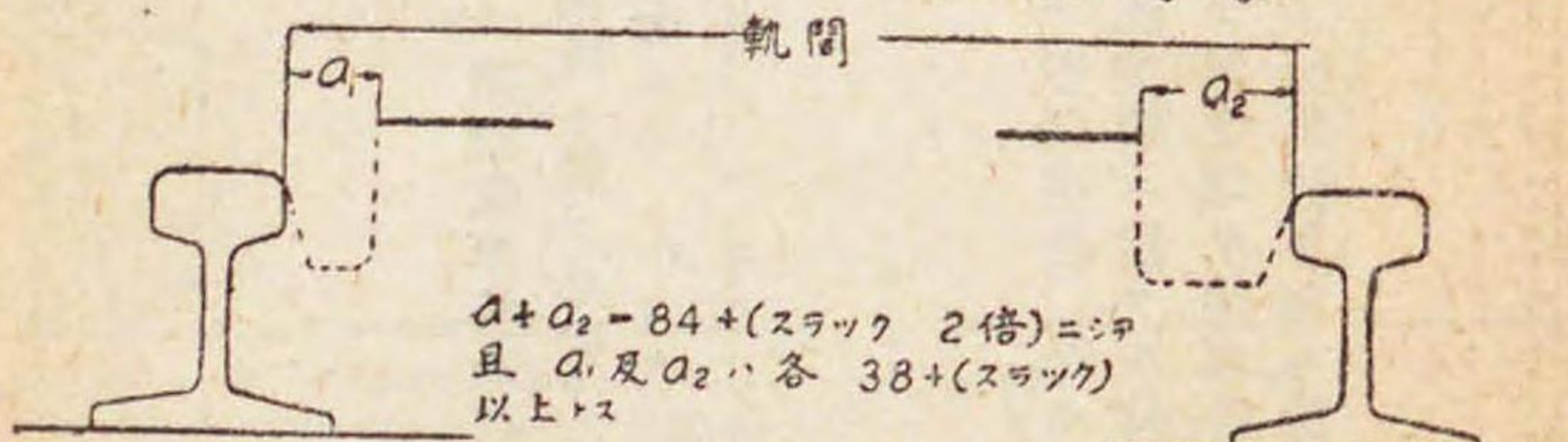
縮尺 100



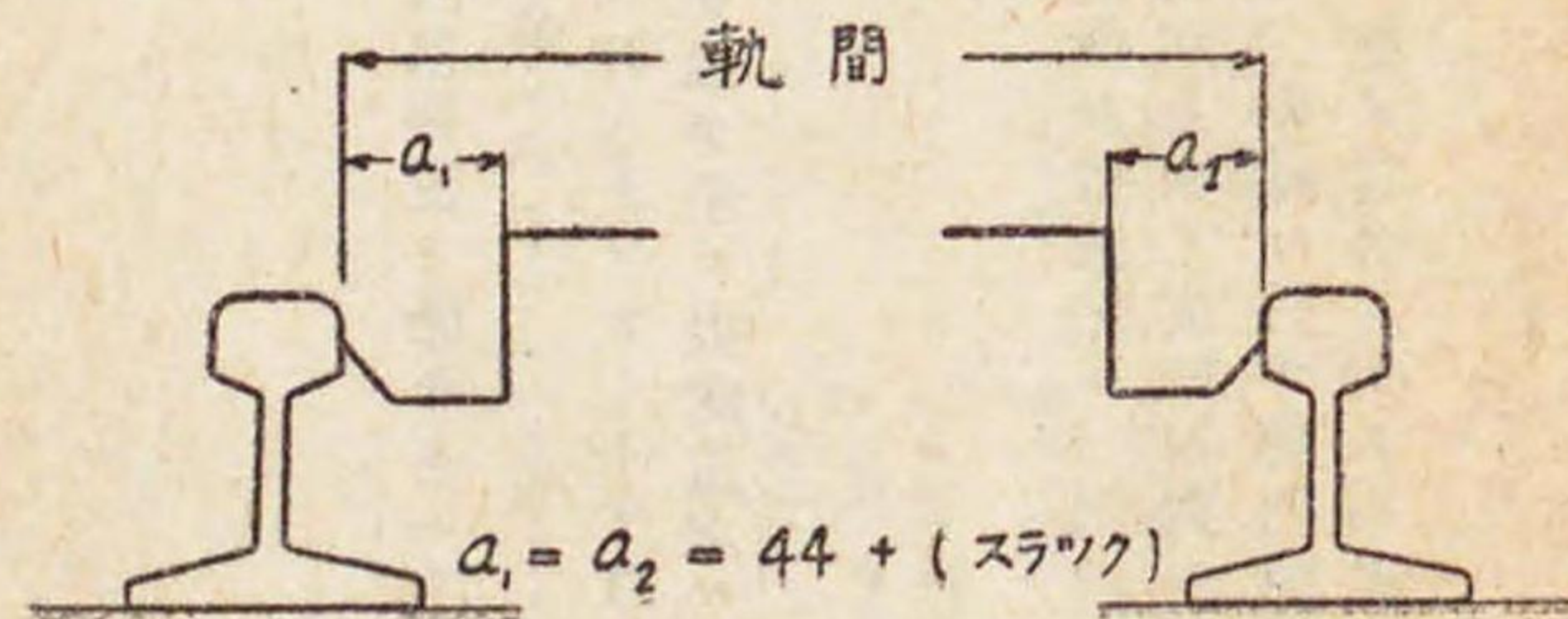
一側ニ護輪裝置ヲ有ス場合



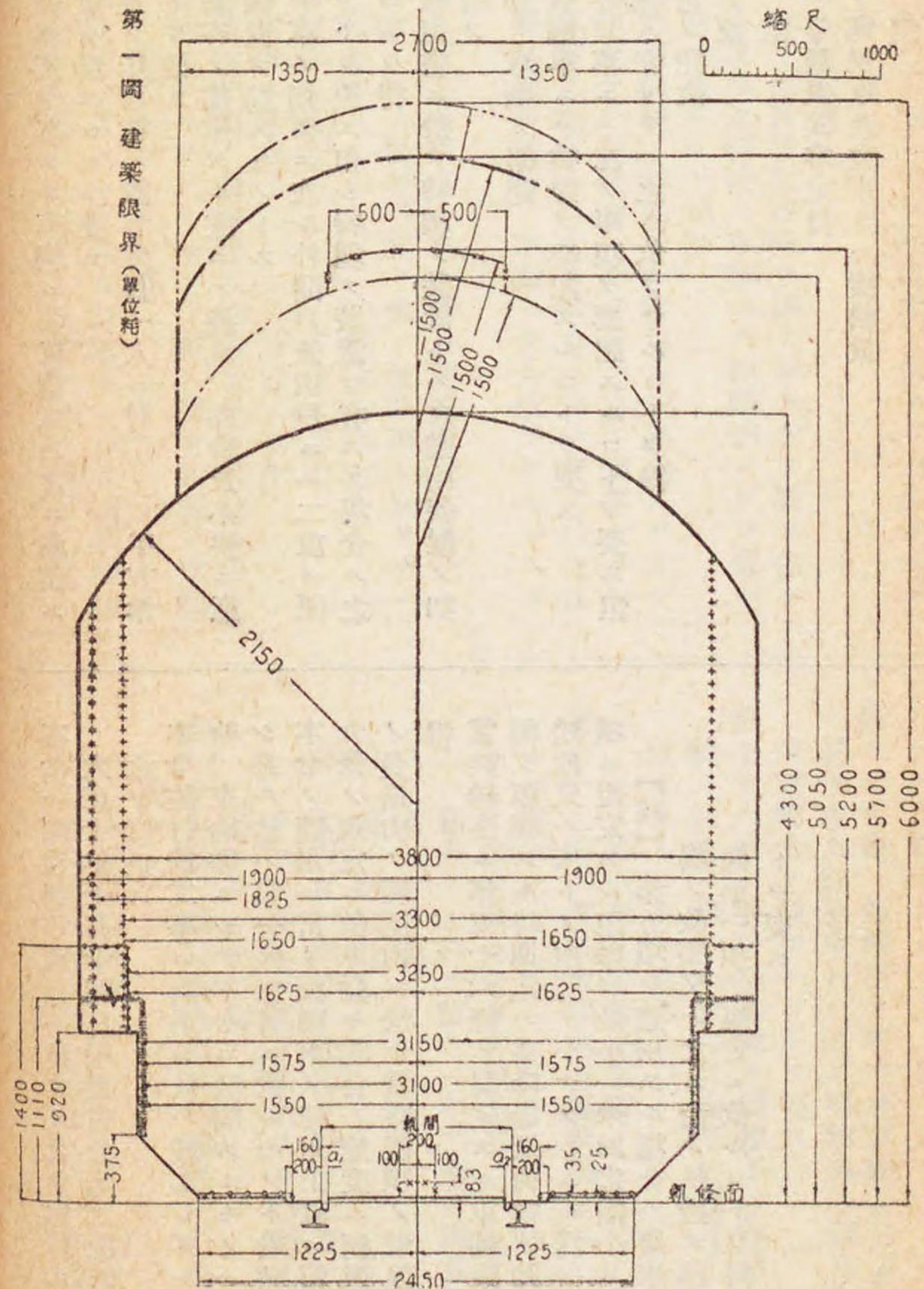
轉轍器及轍叉ニ於テ兩側ニ護輪裝置ヲ有ス場合



護輪裝置ヲ有スル踏切道ノ場合



第一圖 建築限界 (單位規)

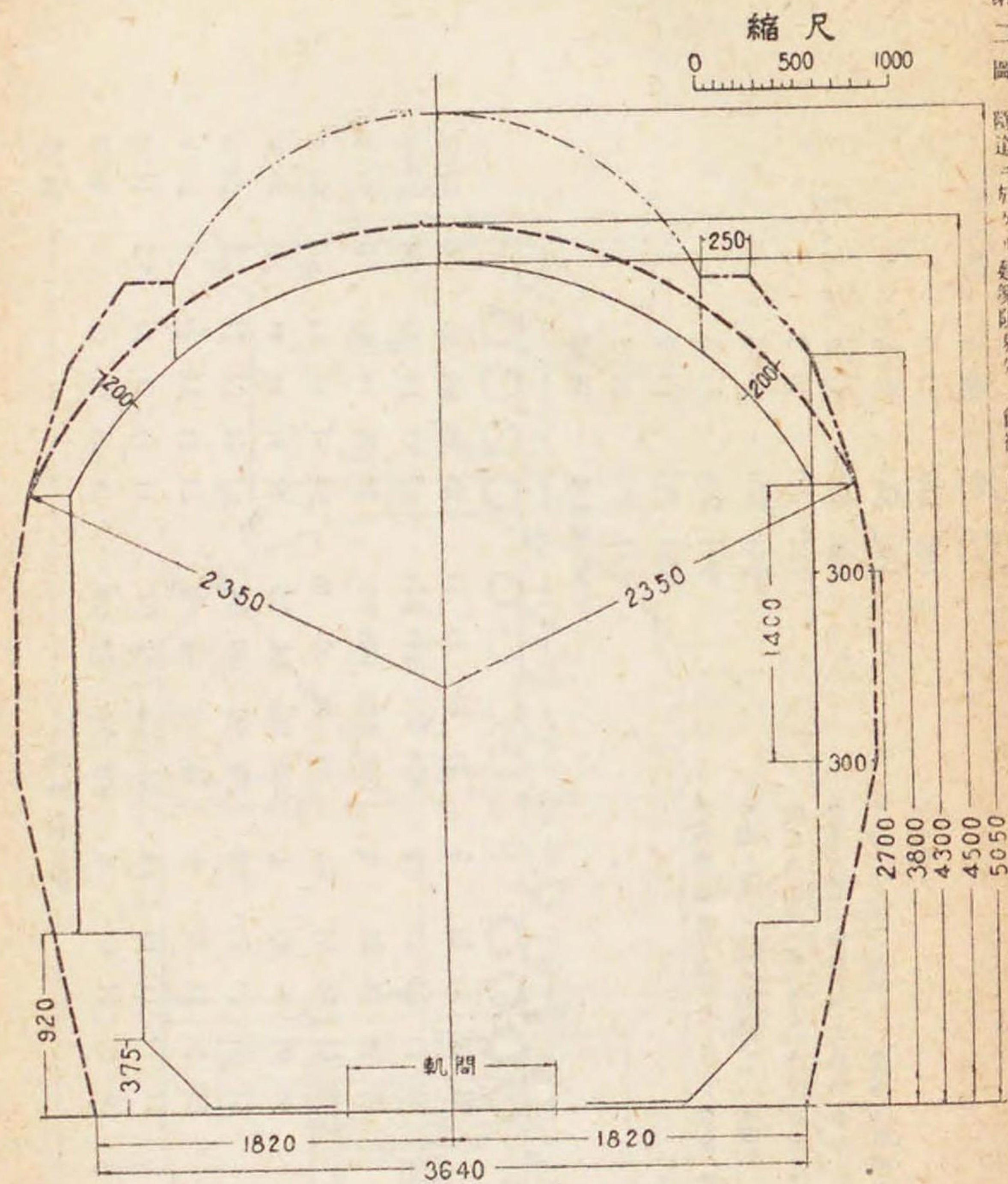


第一圖ノ三

凡例

一般ノ場合ニ對スル限界
 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ於テ架空電車線及其ノ懸吊裝置ヲ除キタル上部ニ對スル限界
 (本限界ハ橋梁、隧道、雪覆、跨線橋及其ノ前後ニ於テ必要アル場合ニハ) 以テ示ス限度迄之ヲ縮
 迄、乗降場上家庇ノ部分ニ於テ必要アル場合ニハ) 以テ示ス限度迄之ヲ縮
 小シ又停車場構内ニ於テ必要アル場合ニハ) 以テ示ス限度迄之ヲ擴大スルモノトス
 乗降場及荷物積卸場ニ對スル限界
 信號標識並特種ノ隧道及橋梁ニ對スル限界
 遷移轉轍器ニ對スル限界
 側線及貨物列車ノミノ發着スル本線路ニ於テ燃料搭載、給水ノ設備及信號柱ニ、側線ニ於テ轉車、計重、洗
 車ノ設備、車庫ノ門路及其ノ内部ノ裝置並軌道間ニ建ツル荷物積卸上家ノ支柱ニ對スル限界
 側線及貨物列車ノミノ發着スル本線路ニ於テ架空電車線支持柱ヲ、側線ニ於テ構内照明燈支持柱ヲ四線路
 以上毎ニ建ツル場合ニ對スル限界(本限界ハ既設停車場ニ於テ一般ノ場合ニ對スル限界ニ依ルコト困難ナ
 ル如キ場合ニ限り之ヲ適用ス)
 轉轍器及轍叉ニ對スル限界
 齒軌條ニ對スル限界

第二圖 隧道ニ於ケル建築限界外ノ餘裕(單位尺)



凡例

一般ノ場合ニ對スル建築限界
 普通ノ區間ニ對スル餘裕
 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ於
 テ隧道ニ對シ建築限界ヲ縮小シ得ル限度
 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス區間ニ對
 スル餘裕

(別表) 線路區間種別表

一 甲 線

線路名稱	區	間
東海道線	東海道本線 橫須賀線(大船橋須賀間) 熱海線(國府津熱海間)	特別ノ線路 左ノ區間 常時急行旅 客列車ヲ運 轉スル線路 東京府熱海 國府津海間 沼津垂井間 關ヶ原神戶間
北陸線	北陸本線(米原敦賀間)	
中央線	中央本線(東京八王子間) 新宿飯田町間)	
山陽線	山陽本線(神戸下關間) 岩德東線(麻里布岩國間) 岩德西線(櫛ヶ濱周防花岡間)	特別ノ線路 左ノ區間 常時急行旅 客列車ヲ運 轉スル線路 神戶明石間

線路名稱	區	間
東海道線	東海道本線 品川沙留間 目黒川鶴見間 川崎濱川崎間 江尻清水埠頭間 名古屋堀川間 八幡白鳥間 稻澤名古屋間 梅小路丹波口間 吹田神崎間 小野濱湊川間	
北陸線	北陸本線(敦賀直江津間) 敦賀敦賀港間)	
中央線	中央本線(八王子名古屋間) 篠ノ井線(鹽尻篠ノ井間) 山陽本線(廣島宇品間) 播但線(姫路和田山間)	

二 乙 線

線路名稱	區	間
關西線	城東線(天王寺大阪間)	
東北線	東北本線(東京青森間。日暮里、尾久、赤羽間) 山手線(赤羽品川間) 池袋田端間) 常磐線(日暮里岩沼間) 高崎線(大宮高崎間)	特別ノ線路 左ノ區間 常時急行旅 客列車ヲ運 轉スル線路 東京大宮間
總武線	總武本線(御茶ノ水千葉間)	
鹿兒島線	鹿兒島本線(門司鳥栖間)	
熱海線	熱海線(熱海沼津間)	特別ノ線路 熱海沼津間
岩德線	岩德線(岩國周防花岡間)	(鶴見橫濱港間) (東灘神戸港間)

(鶴見橫濱港間)
(東灘神戸港間)

線路名稱	區	間
山陽線	宇野線(岡山宇野間) 三吳線(三原竹原間) 吳線(海田市吳間) 山口線(小郡石見益田間) 美禰線(正明市宇田鄉間) 正明市阿川間) 小串線(幡生阿川間)	
山陰線	山陰本線(京都須佐間) 舞鶴線(綾部新舞鶴間) 大社線(出雲今市大社間)	
關西線	關西本線(名古屋大阪港間) 今宮大阪港間) 參宮線(龜山鳥羽間) 草津線(柘植草津間) 奈良線(木津京都間) 片町線(木津片町間) 放出吹田間) 放出正覺寺間)	

東北線	紀勢西線 (和歌山南部間)
東北本線	浦町、青森操車場、青森間 日暮里尾久間 廻送線 日暮里田端間 貨物線
山手線	池袋田端間貨物線
常磐線	田端三河島間 隅田川支線 南千住隅田川間
兩毛線	小山高崎間
上越線	高崎宮內間
水戸線	小山友部間
日光線	宇都宮日光間
鹽竈線	岩切鹽竈間
磐越線	磐越西線 (郡山新津間)
奧羽線	奧羽本線 (福島青森間) 瀧内青森操車場間
羽越線	羽越本線 (新津秋田間)
信越線	信越本線 (高崎新潟間)

室蘭線	室蘭本線 (長萬部岩見澤間) 東室蘭室蘭間
夕張線	追分夕張間
宗谷線	宗谷本線 (旭川、幌延、稚内港間)
東海道本線	大崎、蛇窪間 宮原操車場廻送線
西成線	梅田福島間
片町線	放出正覺寺間分岐點、平野間
總武本線	小名木川越中島間
菟野線	須佐宇田鄉間
紀勢線	南部田邊間
三吳線	竹原吳間
有明線	肥前濱諫早間
下田線	熱海伊東間

三丙線

前二號以外ノ線路區間

國有鐵道建設規程

總武線	總武本線 (千葉銚子間) 新小岩金町間
房總線	千葉、大網、勝浦、蘇我間
成田線	佐倉我孫子間
鹿兒島線	鹿兒島本線 (鳥栖鹿兒島間) 肥薩線 (隼人鹿兒島間)
長崎線	長崎本線 (鳥栖長崎港間) 有明線 (肥前山口肥前濱間) 佐世保線 (早岐佐世保間)
日豐線	日豐本線 (小倉大分間)
筑豐線	筑豐本線 (若松飯塚間) 伊田線 (直方伊田間) 上山田線 (飯塚上山田間)
函館線	函館本線 (函館旭川間) 手宮線 (南小樽手宮間)

○國有鐵道簡易線建設規程

改正 昭 七、五、二七 鐵令八
昭 七、九 鐵令一二

國有鐵道簡易線建設規程左ノ通定ム

國有鐵道簡易線建設規程

第一條 國有鐵道簡易線ノ線路及車輛ノ構造ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本規程ニ規定セサル事項ハ國有鐵道建設規程中丙線ニ對スル規定ニ依ル

第三條 本規程ヲ適用スル線路區間ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 本線路ニ於ケル曲線ノ半徑ハ六十米以上タルコトヲ要ス

前項ノ半徑ハ分岐ニ附帶スル場合ニ於テ百米迄之ヲ縮少スルコトヲ得

停車場ニ於ケル本線路ニシテ乗降場ニ沿フ部分ノ曲線ノ半徑ハ二百米以上タルコトヲ要ス

第五條 本線路ニ於ケル勾配ハ千分ノ三十五ヨリ急ナラサルコトヲ要ス曲線補正ハ之ヲ爲ササルコトヲ得

停車場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ其ノ本線路ノ最端轉轍器(最端轉轍器外カ下リ勾配ナル場合ニハ之ヨリ外方十米

ハ軌道中心ヨリ外緣迄一米九以上タルコトヲ要ス

前項ノ幅ハ道床ノ幅其ノ他線路ノ狀況ニ依リ相當之ヲ擴大スルコトヲ要ス

第十條 本線路ニ於ケル橋梁ノ負擔力ハ國有鐵道建設規程第三圖ニ示ス標準活荷重 K3-10 ニ依ルモノタルコトヲ標準トス

前項ノ負擔力ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ同圖ニ示ス K3-12 ニ依ルモノトス

第十一條 停車場ニ於ケル列車ノ發著スル本線路ノ有效長ハ八十米ヲ標準トス

第十二條 旅客ヲ取扱フ驛ニハ乗降場、待合所、便所等ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

荷物ヲ取扱フ驛ニハ必要アル場合ニ限リ荷物積卸場、荷物庫等ノ設備ヲ爲スモノトス

第十三條 簡易ナル驛設備ノ例示圖參照

第十四條 乘降場及荷物積卸場ノ緣端ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ一米五六タルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ曲線ニ沿フ乘降場及荷物積卸場ニ於テハ曲線半徑八百米ヨリ大ナル場合ニ於テモ國有鐵道建設規程第十九條ニ準シ之ヲ増スコトヲ要ス

乘降場ノ幅ハ兩面ヲ使用スルモノハ三米以上其ノ他ノモ

ノ箇所)ノ間及列車ノ停止區域ニ於テ千分ノ三・五ヨリ急ナラサルコトヲ要ス但シ車輛ノ解結ヲ爲ササル本線路ニシテ列車ノ發著ニ支障ナキ場合ハ千分ノ十五ニ到ルコトヲ得

側線ノ勾配モ亦千分ノ三・五ヨリ急ナラサルコトヲ要ス但シ車輛ヲ留置セサル側線ハ之ニ依ラサルコトヲ得

第六條 本線路ニ於ケル軌道ノ負擔力ハ最大軸重十一噸、最小軸距千五百耗ノ機關車力重連シテ列車ヲ牽引スル場合直線ニ於テ一時間四十五耗ノ速度ノ運轉ニ耐フルモノナルコトヲ標準トス

前項ノ負擔力ハ運轉車輛ノ重量其ノ他線路ノ狀況ニ依リ之ヲ増減スルコトヲ得

第七條 軌條ハ三十冠軌條ノ百分ノ八十ノ強度ヲ有スルモノタルコトヲ標準トス

【註】 本條ノ規定ハ三十冠古軌條ノ利用ヲ考慮シタルモノニシテ新軌條ヲ使用スル場合ニハ三十冠軌條ヲ採用スヘキモノトス

第八條 道床ノ厚ハ枕木下面ヨリ施工基面迄百二十耗ヲ下ラサルコトヲ要ス但シ地盤ノ支持力大ナル場合ハ百耗迄之ヲ減スルコトヲ得

第九條 築堤又ハ切取ニ於ケル施工基面ノ幅(側溝ヲ除ク)

ノハ一米五以上タルコトヲ要ス

乘降場及荷物積卸場ノ高ハ軌條面ヨリ六百六十耗トス

乘降場ニ在ル柱類ト乗降場緣端トノ距離ハ一米以上タルコトヲ要ス

乘降場ニ在ル本家、跨線橋口、地下道口、待合所、便所等ト乗降場緣端トノ距離ハ一米五以上タルコトヲ要ス

第十四條 本線路ハ停車場又ハ信號所ニ於テ相當ノ保安設備アル場合ヲ除キ本線路又ハ他ノ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ス但シ他ノ鐵道、軌道カ人力又ハ馬力ヲ動力トスル場合ニ於テ相當ノ保安設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

【註】 本條但書ノ相當ノ保安設備トハ門扉又ハ警報裝置ノ如キモノヲ謂フ

第十五條 列車ノ行違ヲ爲ス停車場ニハ場内信號機ヲ設クルコトヲ要ス

上下列車ニ對スル場内信號機ハ之ヲ同一柱ニ設クルコトヲ得

第十六條 出發信號機、閉塞信號機、入換信號機及誘導信號機ハ之ヲ設ケサルヲ通例トス

第十七條 場内信號機及掩護信號機ノ信號現示ヲ其ノ防護區域外二百米以上ノ距離ニ於テ列車ヨリ認識スルコト能

五六五

五六五

ハサル場合ハ該信號機ノ前方相當ノ距離ニ於テ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ上リ勾配線ニシテ其ノ必要ヲ認メサル場合ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

第十八條 相互關係ヲ有スル常置信號機及轉轍器ハ聯動ノ裝置ト爲スコトヲ要ス但シ本線路ニ關セサルモノ、常時鎖錠セラレル轉轍器、列車對向通過ノ際取柄ヲ支持スル轉轍器、發條轉轍器及背向轉轍器ニ付テハ之ニ依ラサルコトヲ得

第十九條 機關車(炭水車ヲ含ム)ハ之ヲ二輛連結シ長一米ニ付四軸ノ等布活荷重ヲ牽引スル場合ニ軌道ニ對シ第六條ノ負擔力、橋梁ニ對シ第十條ノ負擔力ヨリ大ナル影響ヲ與ヘサルモノタルコトヲ要ス

第二十條 機關車ノ車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十一噸以下タルコトヲ要ス

前項ノ壓力ノ限度ハ特ニ必要アル場合ニ限り軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ増減スルコトヲ得

第二十一條 客貨車ノ車輛一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十二噸以下タルコトヲ要ス

附 (昭和七年九月鐵道省令第十二號)
本令ノ適用ニ當タリ機關車ノ運用上直ニ第二十條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ當分ノ内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於

簡易ナル驛設備例示圖

列車ノ行違ナキ場合

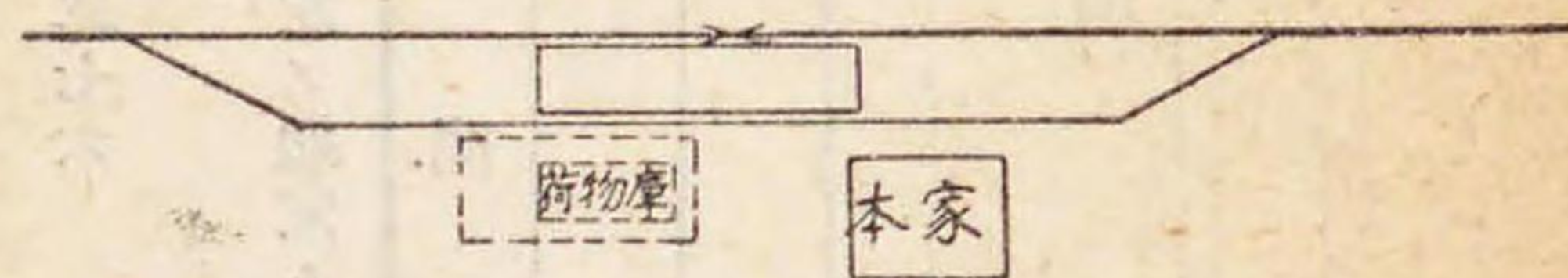
(イ) 乗降場ニ待合所アルモノ(駅員ヲ配置セズ)



(ロ) 乗降場及本家アルモノ(取扱貨物少量)



(ハ) 貨物線ヲ廻線トシタルモノ

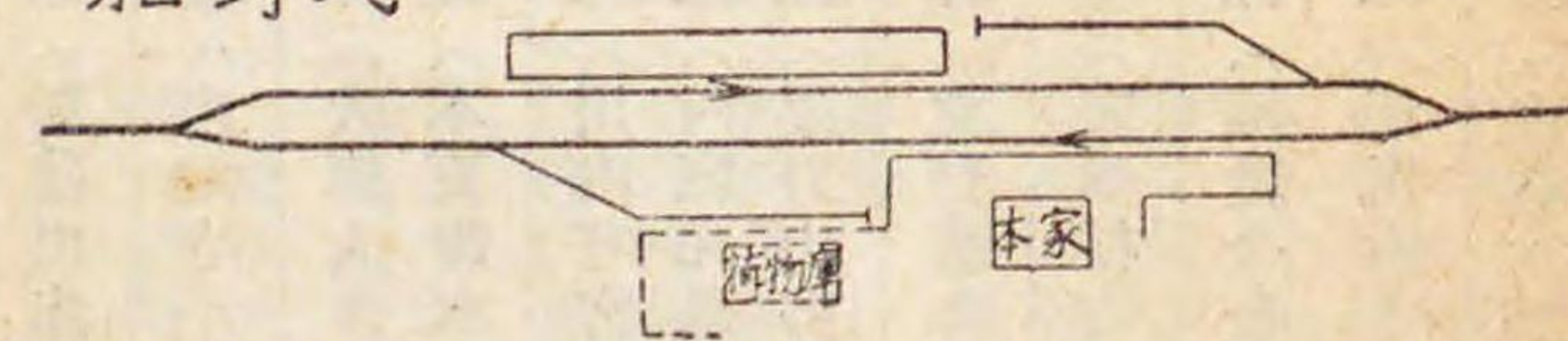


(ニ) 貨物線ヲ廻線トセザルモノ



二 列車ノ行違アル場合

(イ) 相對式



(ロ) 島式



テ當該條項ノ制限ヲ超過スルコトヲ得

當該線路ニ國有鐵道建設規程第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車輛ヲ運轉スル時期迄ハ乗降場及荷物積卸場ノ線端ト車輛ノ踏段又ハ床トノ空隙ヲ小ナラシムル爲一

時第十三條第一項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス

○國有鐵道簡易線建設規程ヲ適用スル線路區間ノ件

改正 昭七、九、二九 鐵告三七六
昭九、二 鐵告五九

國有鐵道簡易線建設規程ヲ適用スル線路區間左ノ通定ム

線路名稱	區間
東海道線	有馬線 (三田有馬間)
中央線	大糸南線 (信濃大町神城間)
山陰線	若櫻線 (郡家若櫻間) 倉吉線 (上井倉吉間) 三江線 (石見江津石見川越間)
關西線	名松線 (松阪家城間)
東北線	烏山線 (寶積寺烏山間) 川俣線 (松川岩代川俣間)

磐越線	會津線 (會津若松會津柳津間) (西若松上三寄間)
羽越線	赤谷線 (新發田赤谷間)
信越線	魚沼線 (來迎寺小千谷間)
總武線	木原線 (大原大多喜間) 久留里線 (木更津久留里間)
鹿兒島線	宮之城線 (川内町宮之城間) 指宿線 (西鹿兒島五位野間) 山野線 (栗野山野間)
豐肥線	高森線 (立野高森間) 妻線 (廣瀬杉安間)
日豐線	瀬棚線 (國縫今金間)
國館線	幌加內線 (深川添牛內間)
日高線	日高線 (佐瑠太靜內間)

留萌線	札沼北線 (石狩沼田中德富間)
名寄線	渚滑線 (渚滑北見瀧ノ上間)
網走線	湧別線 (中湧別下湧別間) 相生線 (美幌北見相生間)
	山田線 (宮古釜石間)
	雨龍線 (添牛內雨龍間)
	會津線 (上三寄田島間)
	輪島線 (穴水輪島間)
	越美線 (北濃福井間)
	大川線 (薩摩大口宮之城間)
	瀬棚線 (今金瀬棚間)
	三江線 (石見川越三次間)
	大糸線 (神城糸魚川間)
	木次線 (落合木次間)
	木原線 (久留里大多喜間)
	名松線 (名張家城間)

小海線 (小海小淵澤間)
札沼線 (札幌中德富間)
指宿線 (五位野指宿間)
信樂線 (貴生川加茂間)
水俣線 (山野水俣間)
阿仁合線 (鷹ノ巢阿仁合間)
日中線 (喜多方日中間)
大近線 (大洲近永間)
小萩線 (小郡萩間)
白杵線 (白杵三重間)
標津線 (厚床標津間)
内海線 (内海志布志間)
佐久間線 (二俣佐久間間)
日高線 (靜内浦河間)
遠別線 (下沙流別遠別間)
明知線 (大井明知間)
本郷線 (廣島本郷間)
日ノ影線 (延岡日ノ影間)

國有鐵道簡易線建設規程

北興濱線 (濱頓別枝幸間)	江差線 (木古内江差間)	南谷線 (倉吉南谷間)	南興濱線 (興部雄武間)	今福線 (濱田今福間)	蕨野線 (山田蕨野間)	萱野線 (宇土萱野間)	釜石線 (花卷釜石間)	矢島線 (前郷矢島間)	近永線 (宇和島近永間)	古江線 (志布志古江間)	長倉線 (長倉大子間)	牟岐線 (羽ノ浦牟岐間)	宮原線 (森宮原間)	西湧網線 (中湧別中佐呂間間)	東湧網線 (網走常呂間)	福山線 (木古内福山間)	樽見線 (大垣樽見間)
---------------	--------------	-------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------	-------------	--------------	------------	-----------------	--------------	--------------	-------------

五七〇

奧名田線 (小濱奧名田間)	鶴ヶ岡線 (殿田鶴ヶ岡間)	小宮線 (小林宮崎間)	宇和島線 (八幡濱宇和島間)	音更線 (上士幌三股間)	標茶線 (中標津標茶間)
---------------	---------------	-------------	----------------	--------------	--------------

路面幅及橋桁並ニ軌條ノ大サハ丙線ニ準ス

○國有鐵道運轉規程

大	一三、一二、一九	昭	三五、三三	鐵	令	三
改正	同	同	同	同	同	同
	七七、五五	七七、五五	七七、五五	七七、五五	七七、五五	七七、五五
	同	同	同	同	同	同
	九九	九九	九九	九九	九九	九九

國有鐵道運轉規程左ノ通定ム

第一章 總則

- 第一條 國有鐵道ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 特ニ簡易ナル構造ノ鐵道ニシテ別ニ定ムル規程ニ依ルトキ
- 二 試運轉ヲ爲ス場合ニシテ本規程ニ依ルコト能ハサルトキ
- 三 其ノ他已ムコトヲ得サルトキ
- 第二條 列車トハ停車場外ノ本線路ヲ進行スルノ目的ヲ以テ仕立テタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ
- 第二章 線路
- 第一節 線路ノ保持
- 國有鐵道運轉規程

第三條 線路ハ所定ノ速度ヲ以テ列車又ハ車輛ヲ安全ニ運轉シ得ル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

本線路カ一時前項ノ狀態ニ在ラサル場合ニ於テハ信號ヲ以テ之ヲ表示シ特ニ注意ヲ必要トスル箇所ハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第四條 本線路ハ毎日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス

本線路ニ被害ノ虞アルトキハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第五條 新設線路、改築又ハ修繕ヲ爲シタル線路及一時使用ヲ休止シタル線路ハ検査シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ本線路ノ改築又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合及使用休止十日未滿ノ場合並側線ニ在リテハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第六條 列車運轉用電力設備ハ所定ノ速度ヲ以テ安全ニ列車又ハ車輛ヲ運轉シ得ル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第七條 架空電車線路、第三軌條及歸線ニシテ本線路ニ係ルモノハ毎日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス

第八條 架空電車線ノ支持又ハ取附部分ニシテ可撓性ヲ缺クモノハ三月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第九條 前條ニ規定スル部分以外ノ架空電車線路、第三軌

條、歸線、高壓及特別高壓用開閉器、自動遮斷器、繼電器並開閉器及變壓器ニ使用スル絶縁油ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第十條 前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外電力設備ハ一年以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第三節 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ノ保持
第十一條 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ完全ナル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第十二條 本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルトキ之ヲ鎖錠シ又ハ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス

第十三條 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ一年以内毎ニ一回其ノ各部ヲ検査スルコトヲ要ス

第四節 踏切道及障碍物
第十四條 相當時間連續シテ交通頻繁ナル踏切道ニハ其ノ時間中看守人ヲ附シ列車又ハ車輛ノ通過前門扉其ノ他ノ遮斷裝置ヲ閉チ其ノ通過後之ヲ開カシムヘシ但シ自動踏切遮斷裝置又ハ通行人ニ注意ヲ喚起セシムヘキ警報裝置ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 建築限界内ニ物ヲ置クコトヲ得ス但シ作業上必要ニシテ運轉ニ支障ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 車 輛

其ノ三割五分以上ヲ増加シタル壓力ヲ使用シ五分間以上之ヲ持續セシムルコトヲ要ス

第二十一條 蒸汽機關車及汽動車ノ汽笛及弁室ノ内部、吐出管、安全弁、加減弁、給水器、給油器、計器並制動裝置ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十二條 蒸汽機關車及汽動車ノ火室内部及火粉止ハ毎月少クトモ一回之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十三條 電氣機關車及電動車電氣部ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ擔彈機及輪軸ヲ取外シテ各部ノ検査及電氣裝置ノ絶縁耐力試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十四條 第十七條及前條ノ絶縁耐力試験ニ於テハ最大使用電壓ニ其ノ五割ヲ増加シタル電壓ヲ使用シ十分間以上之ヲ持續セシムルコトヲ要ス

第二十五條 電氣機關車及電動車ノ電動機、制御裝置、集電裝置、開閉器、自動遮斷器、避雷器、計器並制動裝置ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十六條 電氣機關車及電動車ニ於ケル電路ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ最大使用電壓ヲ以テ毎月少クトモ一回之ヲ試験スルコトヲ要ス

第一節 車輛ノ保持

第十六條 車輛ハ安全ニ運轉シ得ル狀態ニ在ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 新製車輛及改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛ハ検査シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ改造又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合ハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

蒸汽機關車又ハ汽動車ノ罐ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ水壓試験ヲ行フコトヲ要ス電氣機關車又ハ電動車ノ電氣裝置ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ絶縁耐力試験ヲ行フコトヲ要ス

第十八條 蒸汽機關車及汽動車機關部ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ擔彈機、輪軸及罐衣ヲ取外シテ各部ノ検査及罐ノ水壓試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 蒸汽機關車及汽動車ノ罐ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ煙管ヲ取外シテ内部ヲ検査シ水壓試験ヲ行フコトヲ要ス

前項ノ期間ハ六年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十條 前三條ノ水壓試験ニ於テハ罐ノ最高使用壓力ニ

前項ノ試験ニ依リ算出シタル漏洩電流カ低壓ノ場合ハ所定電流ノ五千分ノ一、高壓ノ場合ハ所定電流ノ一萬分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ車輛ハ修繕スルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十七條 客車、貨車並汽動車及電動車ノ機關及電機ヲ除キタル部分ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ輪軸、擔彈機、連結裝置、緩衝裝置及制動裝置ヲ取外シ各部ヲ検査スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ旅客ノ乗用ニ供スル車輛ニ在リテハ一年半貨物ヲ積載スル車輛ニ在リテハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十八條 蒸汽機關車及汽動車機關部ニハ第十八條及第十九條ニ電氣機關車及電動車電機部ニハ第二十三條ニ、客車、貨車並汽動車及電動車ニハ第二十七條ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月日ヲ標記スルコトヲ要ス

第二節 列車ヲ組成スル車輛ノ検査

第二十九條 列車ヲ組成スル車輛ノ運轉要部ハ車輛ノ種類及運轉ノ狀況ニ應シ相當ノ距離ヲ運轉スル毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第三十條 列車ノ貫通制動機ハ列車ヲ組成シ又ハ其ノ組成ヲ變更シタル場合ニ於テ列車出發前之ヲ試験スルコトヲ要ス

前項ノ試験ニ依リ算出シタル漏洩電流カ低壓ノ場合ハ所定電流ノ五千分ノ一、高壓ノ場合ハ所定電流ノ一萬分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ車輛ハ修繕スルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四章 運轉

第一節 列車ノ組成

第三十一條 列車ノ最大軸數ハ之ヲ組成スル車輛ノ臺枿及連結裝置ノ強度ニ應シ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三十二條 列車ヲ組成スル車輛ハ之ヲ相互ニ連結スルコトヲ要ス但シ千分ノ三ヨリ急ナル下リ勾配ヲ有セサル線路ヲ運轉スル列車ノ後部補助機關車ハ此ノ限ニ在ラス

自動連結器ヲ有セサル車輛ノ連結ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外螺旋連結器及連環連結器ヲ以テ二重ニ之ヲ行フコトヲ要ス

連結軸數百ニ對スル制動軸數

速度一時間ニ付	勾配	二千分ノ下ノ千	四分ノ千	六分ノ千	八分ノ千	一分ノ千	一分ノ千	一分ノ千	一分ノ千	一分ノ千
二	〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六
二	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六
三	〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六
三	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六
四	〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六

第三十三條 旅客列車及一時間六十五秒ヲ超ユル速度ヲ以テ運轉スル其他ノ列車ハ貫通制動機ヲ使用シ其ノ連結軸數百ニ對シ八十以上ノ割合ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ列車ニシテ第三十七條ニ依リ貫通制動機ノ作用セサル車輛ヲ連結スル場合ニ於テハ貫通制動機ノ作用スル部分ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

第一項以外ノ列車ノ線路ノ勾配及速度ニ應シ其ノ連結軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

速度一時間ニ付	勾配	二千分ノ	二千分五ノ	三千分ノ	三千分五ノ	四十分ノ	五千分ノ	六十分ノ	七十分ノ
二	〇	一八	二四	三一	三七	四四	五六	六九	八一
二	五	二一	二七	三四	四一	四八	六一	七四	
三	〇	二三	三〇	三七	四四	五二	六五		
三	五	二五	三三	四一	四八	五五	七〇		
四	〇	二八	三六	四四	五二	六〇			
四	五	三一	四〇	四八	五六	六四			

結スルコトヲ得ス

第三十八條 (削除)

第三十九條 火藥類ヲ積載シタル車輛ノ連結ニ就テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十條 火藥類以外ノ貨物ニシテ發火又ハ爆發ノ虞アルモノヲ積載シタル車輛ハ旅客ノ乗用ニ供スル車輛ヨリ四軸以上ヲ隔ツルニ非サレハ列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス

第四十一條 列車ニハ列車標識ヲ掲クルコトヲ要ス

第二節 列車ノ運轉

第四十二條 車輛ハ之ヲ列車ト爲スニ非サレハ停車場外ノ本線路ヲ運轉スルコトヲ得ス但シ入換ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 上下列車ヲ區別シテ運轉スル一對ノ軌道ニ於テハ列車ノ進路ハ左側タルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 線路又ハ列車ニ故障ヲ生シタル場合ニ於テ互リ線ノ設アル最近ノ停車場ニ到ル退行運轉

二 工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉

三 後部補助機車ノ退行運轉

四 停車場ト其ノ附近ノ探礦所、工場、材料置場等トノ

次ノ列車ヲ進入セシムルコトヲ得但シ先發列車其ノ閉塞區間ニ進入シタル後五分時ヲ經過シタル後タルコトヲ要ス

第四十七條 列車ハ左ノ場合ニ限り退行スルコトヲ得

一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ

二 工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉

三 後部補助機車ノ退行運轉

四 停車場ト其ノ附近ノ探礦所、工場、材料置場等トノ

間ニ於ケル運轉

五 入換運轉

六 特殊ノ事由アルトキ

第四十八條 二以上ノ列車ノ發著ニ際シ相互ニ其ノ進路ヲ支障スル虞アル場合ニ於テハ二以上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ出發セシムルコトヲ得ス

第四十九條 列車又ハ車輛ハ停止信號ノ現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ

一ニ該當スル場合ニ於テハ速ニ停止スルコトヲ要ス

一 發雷信號ノ現示アリタルトキ

二 入換信號ニ依リ停止信號ノ現示アリタルトキ

三 現示箇所ニ停止シ能ハサル距離ニ於テ停止信號現示アリタルトキ

間ニ於ケル運轉

五 入換運轉

六 停車場内ノ運轉

第四十四條 本線路ハ之ヲ閉塞區間ニ分ツコトヲ要ス但シ停車場内ノ本線路ハ之ヲ閉塞區間ト爲ササルコトヲ得

單線運轉ヲ爲ス本線路ニ在リテハ列車運轉ノ方向ニ依リ閉塞區間ノ區分ヲ異ニスルコトヲ得

第四十五條 一閉塞區間ニハ二以上ノ列車ヲ同時ニ運轉スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 第四十六條又ハ第五十條ニ依リ運轉スルトキ

二 故障列車ノ在ル閉塞區間ニ於テ救援列車ヲ運轉スルトキ

三 線路不通トナリタル閉塞區間ニ於テ工事列車ヲ運轉スルトキ

四 閉塞區間内ニ於テ後部補助機車ヲ列車ヨリ分離シタルトキ

五 列車ノ入換若ハ誘導又ハ分割運轉ヲ爲ストキ

第四十六條 閉塞區間兩端相互間ノ閉塞裝置ニ故障ヲ生シ且電氣通信不可能トナリタル場合ニ於テハ列車其ノ閉塞區間ヲ出ツヘキ豫定時刻ヲ經過シタルトキハ同一方向ニ

第五十條 列車ハ自動ノ閉塞信號機ノ停止信號現示ニ依リ停止シタル後ハ停止信號現示中ト離其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得

自動ノ閉塞信號機ニ徐行許容標ヲ添裝セルモノニ在リテハ其ノ信號機ニ停止信號ノ現示アル場合ト雖列車ハ停止

セスシテ其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得

第五十一條 列車ハ注意信號現示アル場合ニ於テハ次ノ信號機ニ停止信號ノ現示アルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ次ノ信號機ノ設ナキトキハ注意信號

ヲ現示スル信號機ノ防護スル區域内ニ停止スルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得

第五十二條 列車ハ進行信號現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得

第五十三條 列車ハ出發合圖アルニ非サレハ停車場ヲ出發スルコトヲ得ス

第三節 入換

第五十四條 列車カ隣接セル停車場又ハ信號所ヲ出發シタル後ハ其ノ列車ニ對スル場内信號機外ニ互リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ相當ノ防護ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ外

コトヲ要ス

第七十一條 天候ノ状態ニ依リ百米ノ距離ヨリ信號ノ現示ヲ認識シ難キ場合ニ於テ場内信號機、掩護信號機又ハ閉塞信號機(自動ノ閉塞信號機ヲ除ク)停止信號ヲ現示スルトキハ其ノ信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ列車ノ通過前信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス第六十九條ニ依リ臨時信號機又ハ手信號ノ停止信號ヲ現示スルトキ亦同シ

第七十二條 列車常置信號機ノ設アル箇所ヲ通過スル毎ニ誘導信號機ニ在リテハ信號ヲ現示セサルコトヲ、遠方信號機ニ在リテハ注意信號ヲ現示スルコトヲ、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第七十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ氣笛合圖ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 列車(電車ヲ除ク)運轉ヲ始ムルトキ
- 二 列車分離其ノ他非常ノ事故ヲ生シタルトキ

第六節 停止中ノ車輛

第七十四條 本線路ニ停止中ノ車輛ニハ不測ノ運動ニ對スル防備ヲ爲シ置クコトヲ要ス側線ニ停止中ノ車輛ニシテ本線路ニ逸出スル虞アルモノニ付亦同シ

第七十五條 機關車、汽動車及電動車停止中ハ其ノ自動ヲ防止スルニ必要ナル手段ヲ施シ且動力ヲ有スル間ハ之ヲ

ニハ指導法又ハ票券式ヲ施行スルコトヲ要ス

第二節 閉塞器式

第七十九條 閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第八十條 閉塞器ハ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

- 一 列車閉塞區間ニ無シ
- 二 列車閉塞區間ニ在リ

第八十一條 閉塞器ハ列車ヲ進入セシメタル停車場又ハ信號所ニ於テ一列車閉塞區間ニ在リノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十二條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ承認ハ標識ニ依リ之ヲ表示スルコトヲ要ス但シ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 前條ノ承認ハ其ノ閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ラサルコトヲ確認スルニ非サレハ之ヲ與フルコトヲ得ス

第三節 聯動閉塞器式

第八十四條 聯動閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車

看守スルコトヲ要ス

第五章 閉塞

第一節 通則

第七十六條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル

- 一 複線運轉ヲ爲ス場合
 - 閉塞器式、自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式
 - 二 單線運轉ヲ爲ス場合
 - 通票閉塞器式、通票式、票券式ト閉塞器式若ハ通信閉塞式トノ併用、自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式
- 第七十七條 事故其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル
 - 一 複線運轉ヲ爲ス場合
 - 通信閉塞式
 - 二 單線運轉ヲ爲ス場合
 - 指導法ト通信閉塞式又ハ閉塞器式トノ併用

但シ自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式ニ依リ複線運轉ヲ爲ス區間ノ一軌道ニ於テ一時單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ複線運轉ノ場合ト同一方向ニ運轉スル列車ニ對シテハ指導法ト其ノ閉塞方式トノ併用ニ依ルコトヲ得

第七十八條 第四十六條ノ場合ニ於テ單線運轉ヲ爲ス區間

場又ハ信號所ニハ聯動閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第八十五條 聯動閉塞器ハ信號機ト聯動シ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

- 一 列車閉塞區間ニ無シ
- 二 列車閉塞區間ニ在リ

第八十六條 聯動閉塞器ハ列車閉塞區間ニ在ルトキハ其ノ區間ノ信號機ニ他ノ列車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示シ能ハサラシムル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十七條 聯動閉塞器ハ閉塞區間ニ進入シタル列車カ其ノ區間ヲ通過シ了リタル後ニ非サレハ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十八條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス但シ前方ノ停車場又ハ信號所ヨリ豫メ其ノ承認アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十三條ノ規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第四節 自動閉塞式

第八十九條 自動閉塞式ヲ施行スル閉塞區間ノ場内信號機出發信號機及閉塞信號機ハ自動作用ニ依リ左ノ條件ヲ具

備スル装置ノモノタルコトヲ要ス

一 閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

二 裝置ニ故障ヲ生シタルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

三 閉塞區間ニ在ル轉轍器カ正當ノ方位ニ在ラサルトキ

又ハ分岐線若ハ交叉線ニ於ケル列車若ハ車輛カ閉塞區間ヲ支障スルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

四 單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示シタルトキ

ハ反對ノ方向ヨリ其ノ閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對シ停止信號ヲ現示スルコト

第五節 通信閉塞式

第九十條 通信閉塞式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ特設ノ電話機ヲ備フルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ他ノ電話機又ハ電信機ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一 運轉閑散ナルトキ

二 特設ノ電話機ニ故障ヲ生シタルトキ

三 事故其ノ他已ムコトヲ得サル場合ニ於テ電話機ヲ特設シ難キトキ

其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第九十七條 列車ノ運轉ニ使用シタル通票ハ通票閉塞器ニ收容シタル後ニ非サレハ之ヲ他ノ列車ノ運轉ニ使用スルコトヲ得ス

第九十八條 第八十二條第一項及第八十三條ノ規定ハ通票閉塞器式ニ之ヲ準用ス

第七節 通票式

第九十九條 通票式ヲ施行スル閉塞區間ニハ通票ヲ備フルコトヲ要ス

通票ハ一閉塞區間ニ一箇トシ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ記入スルコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及第九十六條ノ規定ハ通票式ニ之ヲ準用ス

第八節 票券式

第一百一條 票券式ヲ施行スル場合ニ於テハ對向列車ニ對スル閉塞區間ニハ通票ヲ、其ノ區間兩端ノ停車場ニハ通票ヲ收容シタル通券函ヲ備フルコトヲ要ス

通票ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一箇トシ之ニ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ記入スルコトヲ要ス

第一百二條 通券函ハ其ノ區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得サル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第九十一條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシムトスルトキハ電氣通信ニ依リ前方ノ停車場又ハ信號所ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第八十三條ノ規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第六節 通票閉塞器式

第九十二條 通票閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ通票閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第九十三條 通票閉塞器ハ其ノ區間專用ノ通票ヲ收容シ且電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

第九十四條 通票閉塞器ハ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノタルコトヲ要ス

一 通票ハ閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニ於テ協同スルニ非サレハ之ヲ取出シ能ハサルコト

二 閉塞區間兩端ニ於ケル通票閉塞器ニ收容セラレタル通票ハ一箇ニ限り之ヲ取出スコトヲ得他ノ通票ハ取出サレタル通票ヲ通票閉塞器ニ納入スルニ非サレハ取出シ能ハサルコト

三 隣接閉塞區間ノ通票ヲ收容シ能ハサルコト

第九十五條 隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスルコトヲ要ス

第九十六條 列車ハ當該區間ノ通票ヲ攜帶スルニ非サレハ

第三百三條 隣接區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニシ、通票ハ其ノ色ヲ異ニスルコトヲ要ス

第三百四條 列車ハ當該區間ノ通票又ハ通券ヲ攜帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第三百五條 通券ニハ其ノ區間兩端ノ停車場名、發行年月日及之ヲ使用スル列車名ヲ記入スルコトヲ要ス

一 列車ニ使用シタル通券ハ他ノ列車ニ使用スルコトヲ得ス

第三百六條 列車ニ通券ヲ交付スルトキハ當該區間ノ通票ヲ示スコトヲ要ス

列車ハ當該區間ノ通票ヲ確認スルニ非サレハ通券ヲ受領スルコトヲ得ス

第九節 指導法

第三百七條 指導法ヲ施行スル區間ニハ指導者ヲ定ムルコトヲ要ス

指導者ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一人トス

第三百八條 指導者ノ氏名及擔當區間ハ豫メ之ヲ關係係員ニ通告スルコトヲ要ス

指導者ハ赤色ノ腕章ヲ著クルコトヲ要ス

第三百九條 指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得

第四百條 列車ハ當該區間ノ指導者之ニ乗込ミ又ハ指導券

國有鐵道運轉規程

ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス
 第一百一條 列車ハ指導者ヨリ直接指導券ノ交付ヲ受クル
 ニ非サレハ之ヲ受領スルコトヲ得ス
 第一百十二條 第一百五條ノ規定ハ指導券ニ付之ヲ準用ス

附則
 第一百十三條 本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第一百十四條 鐵道運轉規程ハ之ヲ廢止ス

○國有鐵道簡易線運轉規程

昭 七、五、二七 鐵令一〇
 改正 昭 七、九 鐵令一三

國有鐵道簡易線運轉規程左ノ通定ム
 國有鐵道簡易線運轉規程
 第一條 國有鐵道簡易線ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所
 ニ依ル
 第二條 本規程ニ規定セサル事項ハ國有鐵道運轉規程ノ定
 ムル所ニ依ル
 第三條 列車ノ最大軸數ハ機關車ヲ除キ之ヲ二十軸トス但
 連結軸數百ニ對スル制動軸數

線路ノ勾配	一千分以下	一千分	二千分	一千分	一千分	六分	一分	一分	八分	二分	五分	三分	一分	五分
制動軸數	六	八	一一	一三	一六	一八	二四	三一	三七					

線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲ケルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル制動軸數ノ割合ハ挿入法ニ依リ算出ス

第五條 列車ノ後部（推進ノ場合ニ於テハ前頭）ニハ制動
 筒附車輛ヲ連結スルコトヲ要ス
 前條第一項但書及同條第二項ノ列車ニハ其ノ後部（推進
 國有鐵道簡易線運轉規程

シ特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 列車ハ貫通制動機ヲ使用シ機關車ヲ除キ其ノ連結
 現軸數百ニ對シ旅客列車ハ八十以上其ノ他ノ列車ハ五十
 以上ノ割合ノ制動現軸ヲ備フルコトヲ要ス但シ必要ニ應
 シ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ其ノ制動機ノ作用
 セサル車輛ヲ連結スルコトヲ得
 轉種ノ事由アル場合ハ貫通制動機ノ作用セサル列車ヲ運
 轉スルコトヲ得
 第一項但書ノ列車ニ於ケル貫通制動機ノ作用セサル部分
 及第二項ノ列車ニ於テハ線路ノ勾配ニ應シ其ノ連結軸數
 ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

ノ場合ニ於テハ前頭）ニ緩急車ヲ連結シ之ニ車掌ヲ乗務
 セシムヘシ
 前二項ノ場合ニ於テ列車ノ後部ニ制動機ノ作用セサル貨

車又ハ廻送車輛ハ一輛ニ限リ之ヲ連結スルコトヲ得

第六條 列車ノ後部標識ハ之ヲ掲ケサルコトヲ得但シ左ノ

各號ノ列車ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得ス

一 臨時列車ノ運轉ヲ豫メ關係ノ向ニ通告スル能ハサル

場合ニ於テ之ニ先チ同方向ニ運轉スル直前ノ列車

二 事故ノ爲隔時法ニ依リ運轉スル列車

第七條 安全側線又ハ脱線裝置等ノ設備ナキ停車場ニ於テ

ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ上下列車ヲ同時ニ進入

セシムルコトヲ得

一 上下列車カ何レモ貫通制動機ヲ使用スルトキ

二 最遠轉轍器外八十米以内ニ千分ノ十ヨリ急ナル勾配

ナキトキ

第八條 本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルト

キ之ヲ鎖錠シ又ハ其ノ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス但シ發

條轉轍器ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 列車ハ出發合圖アルニ非サレハ停車場ヲ出發スル

コトヲ得ス但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 列車カ停車場ニ進入スヘキ時刻ノ十分前ヨリ到

著スル迄ハ其ノ方面ニ於テ停車場外ニ互リ列車又ハ車輛

ノ入換ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 列車ハ一時間四十五秒ノ速度ヲ超エテ運轉スル

コトヲ得ス但シ軌道及橋梁ニ對シ其ノ負擔力ヨリ大ナル

影響ヲ與ヘサル場合ハ一時間六十五秒迄増スコトヲ得

【註】本條但書ハ氣動車運轉ノ如キ場合ヲ考慮セルモ

ノナリ

第十二條 列車ノ行違ヲ爲ス場合ニ於ケル停車場進入速度

ハ對向轉轍器通過ノ際一時間二十秒以下タルコトヲ要ス

第十三條 半徑六百米以下ノ曲線ニ於テハ列車ハ左ノ速度

ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ス

曲線半徑 (米)	速度 (時間ニ付秒)	
	線路ノ分 岐ニ附帶 セサル曲 線ノ場合	線路ノ分 岐ニ附帶 スル曲線 ノ場合
一〇〇〇	二〇	一五
二〇〇〇	三五	二五
三〇〇〇	四五	三〇
四〇〇〇	五〇	三五
五〇〇〇	五五	四〇
六〇〇〇	六〇	四五

附則

本令ノ適用ニ當タリ既設線路ニシテ現ニ一時間四十五秒ヲ

超ユル速度ヲ以テ列車ノ運轉ヲナス區間ニ在リテハ當分ノ

内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ第十一條ノ制限ヲ超

過スルコトヲ得但シ一時間六十五秒ヲ超ユルコトヲ得ス

曲線半徑本表ニ掲クルモノノ中
間ニ在ル場合ノ速度ハ挿入法ニ
依リ算出ス

第十四條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ票券式ト通信閉塞式ト
ノ併用ニ依ルヲ通例トス

○國有鐵道信號規程

改正	大	一〇、一〇、一四	鐵令三
	昭	一、一、一〇	鐵令四
	同	三、三、二	同二
	同	五、五、二	同二
	同	六、八、二	同五

國有鐵道信號規程左ノ通定ム

國有鐵道信號規程

第一章 總 則

第一條 國有鐵道ニ於ケル信號、合圖及標識ノ方式ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 晝間ト夜間トニ依リ現示方式ヲ異ニスル信號、合圖及標識ハ日出ヨリ日没迄ハ晝間ノ方式、日没ヨリ日出迄ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ天候ノ状態ニ依リ相當距離ヨリ晝間ノ現示ヲ認識シ難キトキハ夜間ノ方式ニ依ル

第三條 隧道内ニ於ケル信號、合圖及標識ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ長一軒以下ノ隧道内ニ於ケル列車標識ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 信 號

第一節 常置信號機

第四條 常置信號機ノ主ナル種類左ノ如シ

- 一 場内信號機 停車場ニ進入セムトスル列車ニ對スルモノ
 - 二 出發信號機 停車場ヨリ進出セムトスル列車ニ對スルモノ
 - 三 閉塞信號機 閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對スルモノ
 - 四 掩護信號機 特ニ防護ヲ要スル箇所ヲ通過セムトスル列車ニ對スルモノ
 - 五 遠方信號機 前四號ノ常置信號機ニ從屬シ主體ノ信號機ニ向テ進行スル列車ニ對スルモノ
 - 六 誘導信號機 場内信號機又ハ出發信號機ニ停止信號ノ現示アル場合誘導ヲ受クヘキ列車ニ對スルモノ
 - 七 入換信號機 入換スヘキ列車又ハ車輛ニ對スルモノ
- 第五條 常置信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕、色燈又ハ燈列ヲ以テ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス
- 一 場内信號機、出發信號機、閉塞信號機及掩護信號機 三位式ニ依ル現示

停止信號	晝間	腕木式	色燈式
	夜間	腕水平	晝間 赤色燈
			夜間 赤色燈

注意信號

晝間	腕上向四十五度	晝間	橙黃色燈
夜間	橙黃色燈	晝間	橙黃色燈

進行信號

晝間	腕上向九十度	晝間	綠色燈
夜間	綠色燈	晝間	綠色燈

二位式ニ依ル現示

腕木式 色燈式

停止信號

晝間	腕水平	晝間	赤色燈
夜間	赤色燈	晝間	赤色燈

進行信號

晝間	腕下向四十五度	晝間	綠色燈
夜間	綠色燈	晝間	綠色燈

二 遠方信號機

主體ノ信號機カ三位式ニ依ル場合ノ現示

腕木式 色燈式

注意信號

晝間	腕上向四十五度	晝間	橙黃色燈
夜間	橙黃色燈	晝間	橙黃色燈

進行信號

晝間	腕上向九十度	晝間	綠色燈
夜間	綠色燈	晝間	綠色燈

主體ノ信號機カ二位式ニ依ル場合ノ現示

腕木式 色燈式

注意信號

晝間	腕水平	晝間	橙黃色燈
夜間	橙黃色燈	晝間	橙黃色燈

國有鐵道信號規程

進行信號

晝間	腕下向四十五度	晝間	綠色燈
夜間	綠色燈	晝間	綠色燈

三 誘導信號機

燈列式ニ依ル現示 腕木式ニ依ル現示

進行信號

晝間	白色燈列左下向	晝間	腕下向四十五度
夜間	白色燈列左下向	夜間	綠色燈

色燈式ニ依ル現示

晝間 綠色燈

四 入換信號機

三位式ニ依ル現示

燈列式

停止信號

晝間	白色燈列水平	晝間	腕水平
夜間	白色燈列水平	夜間	腕水平

二位式ニ依ル現示 燈列式

晝間 腕水平

晝間 腕水平

晝間 腕水平

三位式ニ依ル現示

燈列式

注意信號

晝間	白色燈列左下	晝間	腕水平
夜間	白色燈列左下	夜間	腕水平

三位式ニ依ル現示
腕木式

進行信號
晝間 白色燈列垂直
夜間 腕木式
晝間 腕木式
夜間 腕木式
燈列式
晝間 綠色燈
夜間 綠色燈

晝間 白色燈列左下
夜間 向四十五度

上リ勾配區間ニ於ケル自動閉塞信號機ニハ必要ニ應シ左ノ方式ニ依リ徐行許容標ヲ添裝ス

晝間 白色燈
夜間 紫色燈

第六條 場内信號機、出發信號機、閉塞信號機、掩護信號機及入換信號機ハ停止信號ヲ、遠方信號機ハ注意信號ヲ現示シ誘導信號機ハ信號ヲ現示セサルヲ其ノ定位トス但シ自動ノ閉塞信號機及其ノ遠方信號機ハ進行信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トス

第七條 常置信號機ノ腕ハ長方形トス但シ腕端ハ自動ノ閉塞信號機ニ在リテハ尖形、出發信號機ノ遠方信號機ニ在リテハ撥形、其ノ他ノ遠方信號機ニ在リテハ矢筈形トス常置信號機ノ腕ノ表面ハ遠方信號機ニ在リテハ橙黃色、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ赤色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ遠方信號機ニ在リテハ黒色、其ノ他ノ信號機ニ在リ

二 徐行信號機

徐行信號機
晝間 白色線ノ橙黃色圓板
夜間 橙黃色燈

三 徐行解除信號機

徐行解除信號機
晝間 白色線ノ綠色圓板
夜間 綠色燈

臨時信號機ノ標板ノ背面及背面光ハ白色トス但シ單線ニ於テハ徐行信號機ノ標板及燈ノ背面ニ徐行解除信號ヲ現示スルコトヲ得

第三節 手信號

第十一條 信號機ナキ場合及之ヲ用ウルコト能ハサル場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

停止信號

晝間 赤色旗
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク舉ケテハ綠色旗以外ノ物ヲ急激ニ振リテ之ニ代フルコトヲ得
夜間 赤色燈
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ綠色燈以外ノ燈ヲ急激ニ振リテ之ニ代フルコトヲ得

進行信號

晝間 綠色旗
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ高ク舉ケテ之ニ代フルコトヲ得
夜間 綠色燈

テハ白色線ヲ割ス
常置信號機ノ腕ノ背面ハ白色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ黒色線ヲ割ス

第八條 常置信號機ノ現示ヲ夜間後方ヨリ識別スル爲用ウル背面光ハ左ノ方式ニ依ル

一 遠方信號機
注意信號 大ナル白光
進行信號 小ナル白光

二 其ノ他ノ信號機
停止信號 大ナル白光

第九條 同一柱ニ於テ同一種類ノ信號ニ以上ヲ現示スル場合ニ於テハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ、以下順次右方ノ線路ニ關スルモノトス但シ自動閉塞式施行區間ニ於ケル場内信號機、出發信號機及閉塞信號機ニ在リテハ最上位ノモノハ最主要ノ線路ニ關スルモノトス

第十條 臨時信號機ノ種類及現示方式左ノ如シ
一 停止信號機
晝間 白色線ノ赤色長方形板
夜間 赤色燈

二 徐行信號機
晝間 頭上ニ高ク交叉シタル赤色旗及綠色旗
夜間 明滅スル綠色燈

第十二條 入換ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

信號者ノ方へ來レ
晝間 綠色旗ヲ左右ニ振ル
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ左右ニ動かシテ之ニ代フルコトヲ得
夜間 綠色燈ヲ左右ニ振ル

信號者ヨリ去レ
晝間 綠色旗ヲ上下ニ振ル
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ上下ニ動かシテ之ニ代フルコトヲ得
夜間 綠色燈ヲ上下ニ振ル

停止信號
晝間 赤色旗
但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク舉ケテ之ニ代フルコトヲ得
夜間 赤色燈

第十四條 列車ノ出發合圖ハ左ノ方式ニ依ル但シ手笛吹鳴

第十三條 發雷信號ハ雷管ノ爆發ニ依リ停止信號ヲ現示ス雷管ハ相當距離ヲ隔テテ二箇所以上ニ之ヲ裝置スルモノトス

第十四條 第三章 合圖

第三章 合圖

第十四條 列車ノ出發合圖ハ左ノ方式ニ依ル但シ手笛吹鳴

ヲ併用スルコトヲ妨ケス

晝間 片腕ヲ高ク擧ク

夜間 綠色燈ヲ圓形ニ動カス

第十五條 保線係員ニ對シ直ニ線路ヲ檢查スヘキコトヲ請
求スル場合ニ於テ列車乗務員ノ爲ス合圖ハ左ノ方式ニ依
ル

晝間 帽又ハ其ノ他ノ物ヲ緩ニ振ル

夜間 燈ヲ緩ニ振ル

第十六條 氣笛合圖ハ左ノ方式ニ依ル

運轉ヲ始ムルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ

適度氣笛一聲

列車ノ接近ヲ告クルトキ 長緩氣笛一聲

制動機ノ緊締ヲ促ストキ 短急氣笛三聲

制動機ノ緩解ヲ促ストキ 適度氣笛二聲

危險ヲ警告スルトキ 短急氣笛數聲

列車ノ分離シタルトキ 短急氣笛數聲及適度氣笛一聲

保線係員ヲ招集スルトキ 長緩氣笛數聲

列車防護ノ解除ヲ告クルトキ 長緩氣笛數聲

機關車二輛以上ヲ連結スル列車退行セムトスルトキ

第四章 標識

第一節 列車標識

短急氣笛二聲及適度氣笛一聲

第十七條 列車ノ前部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 無標識 但シ臨時列車(電車ヲ除ク)ニハ機關
車前面ノ中央上部ニ白色圓板一箇

夜間 機關車前面ノ中央上部ニ白色燈一箇 但シ臨時
列車(電車ヲ除ク)ニハ更ニ機關車前部端梁ノ左
側ニ白色燈一箇

前項ノ規定ハ機關車ヲ前頭ニ連結セサル列車ニ付之ヲ準
用ス

第十八條 列車ノ後部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色圓板一箇但シ
電車ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

夜間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色燈一箇

臨時列車ト同方向ニ運轉スル直前ノ列車(電車ヲ除ク)
ニハ前項ノ標識ノ外左ノ標識ヲ掲ク

晝間 後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色圓板一箇但シ
已ムコトヲ得サル場合ハ赤色旗ヲ以テ之ニ代フルコ
トヲ得

夜間 後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色燈一箇

第十九條 列車標識ノ圓板ハ同色線ノ燈器ヲ以テ之ニ代フ
ルコトヲ得

第二節 入換機關車標識

第二十條 入換機關車ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 無標識

夜間 前部端梁ノ右側及後部端梁ノ左側ニ赤色燈各一
箇

第三節 轉轍器標識

第二十一條 轉轍器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 前方及後方ヘ中央ニ白色線一條ヲ
轉轍器定位
ニ在ルトキ 横ニ劃シタル群青色圓板

夜間 前方及後方ヘ紫色燈

晝間 前方及後方ヘ中央ニ黑色線一條ヲ
轉轍器反位
ニ在ルトキ 矢筈ニ劃シタル橙黃色矢羽形板

夜間 前方及後方ヘ橙黃色燈

第四節 遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識

第二十二條 遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識ハ左
ノ方式ニ依

晝間 前方ヘ白色線ノ赤色長方形板

夜間 前方ヘ白色長方形板

晝間 後方ヘ白色長方形板

夜間 後方ヘ赤色燈

晝間 前方ヘ白色線ノ赤色長方形板

夜間 後方ヘ白色燈

脫線セシムルコトナ
キ位置ニ在ルトキ 晝間 前方及後方ヘ中央ニ黑色線
一條ヲ横ニ劃シタル橙黃色
菱形板

夜間 前方及後方ヘ橙黃色燈

第二十三條 車止ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 無標識

夜間 ×形白色燈

第五節 車止標識

第二十四條 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 鐵道信號規程ハ之ヲ廢止ス

本規程施行前工事ニ著手シ又ハ竣功シタル信號機及標識

等ニシテ第七條第二項、第十七條及第二十二條ノ規定ニ

牴觸スルモノハ六月内ニ、第十條ノ規定ニ牴觸スルモノ

ハ一年内ニ、第五條ノ規定ニ牴觸スルモノハ二年内ニ、

第二十三條ノ規定ニ牴觸スルモノハ三年内ニ之ヲ改築ス
ルコトヲ要ス

大正十三年十一月廿五日 發行
昭和二年九月廿九日 改訂 第四版發行
昭和五年九月廿六日 改訂 第五版發行
昭和十年三月廿七日 改訂 增補第六版印刷
昭和十年四月三十日 改訂 增補第六版發行

定價 ¥ 2.20

送料 ¥ 0.20

東京市品川區大井北濱川町一一九二番地

發行兼印刷者 木下武之助
電話高輪三九〇七

東京市麴町區九段一丁目四番地

印刷所 文雅堂印刷所

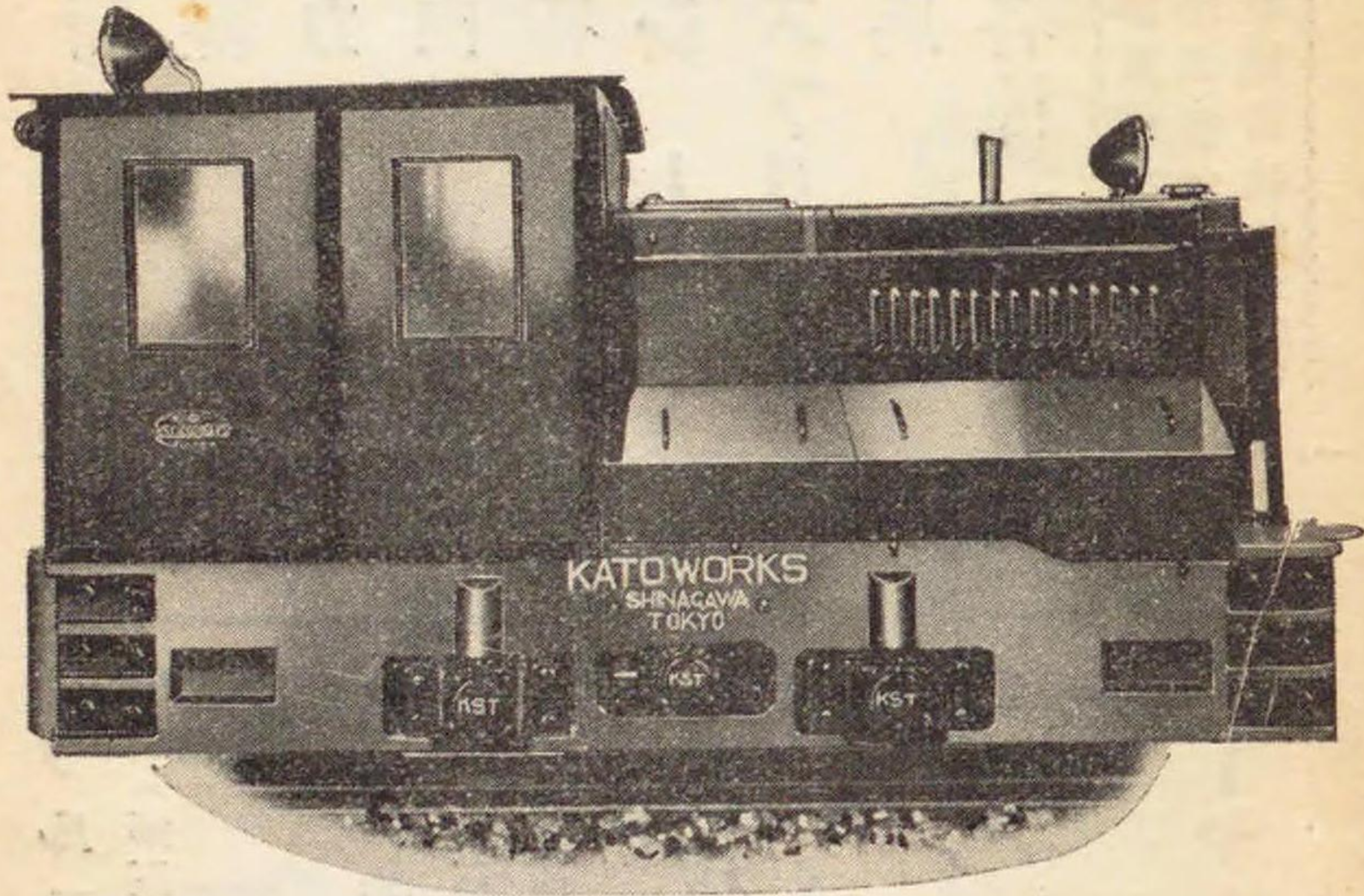
東京市神田區鍛冶町二丁目廿二番地

發行所 株式會社 鐵道時報局

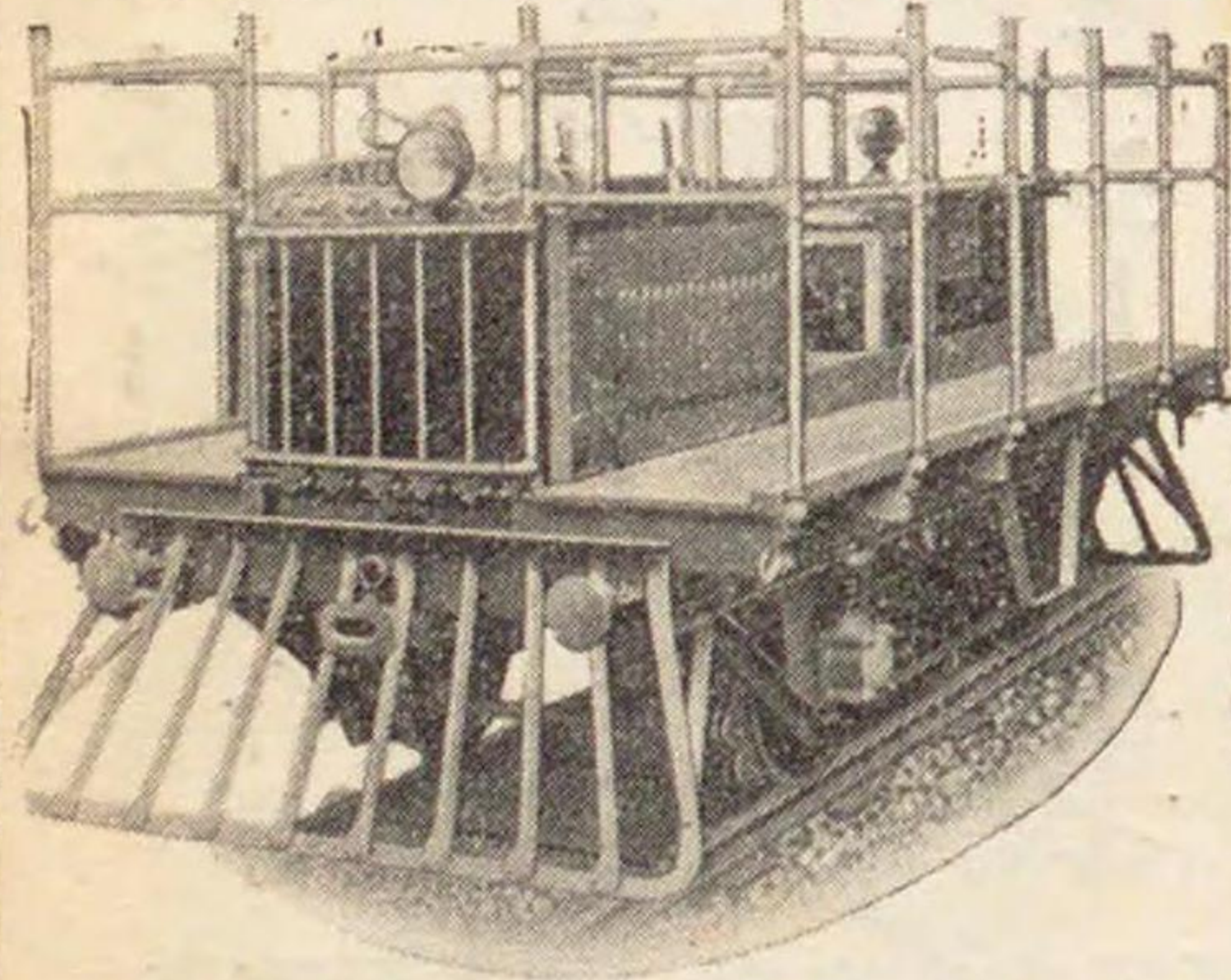
電話神田三八二九番
振替東京四二三番
口座

御
用
命
先

鐵道省、內務省、宮內省、農林省、陸海軍省
朝鮮總督府、臺灣總督府、鐵路總局
北海道廳、各府縣廳、地方鐵道、及諸會社



弊社製作ノガソリン機關車從來四千有餘臺ヲ製作シ諸官省、土
木、炭鑛、砂利會社、各諸會社、等大方各位ヨリ御賞讚ヲ賜ル



- K.S.T 瓦斯倫機關車
- K.S.T ティーゼル機關車
- K.S.T モーターカー
- K.S.T 構内小型運搬車
- K.S.T ロードローラー
- K.S.T 蓄電池機關車

用途 保線、警備、現場視察、材料運搬

創業明治四十年
鐵道省指定工場



株式
會社

加藤製作所

東京市品川區南品川五丁目廿一番地

電話高輪 1808番 3560番 3561番

號六〇九三七第・號二〇六三七第許特

標商錄登

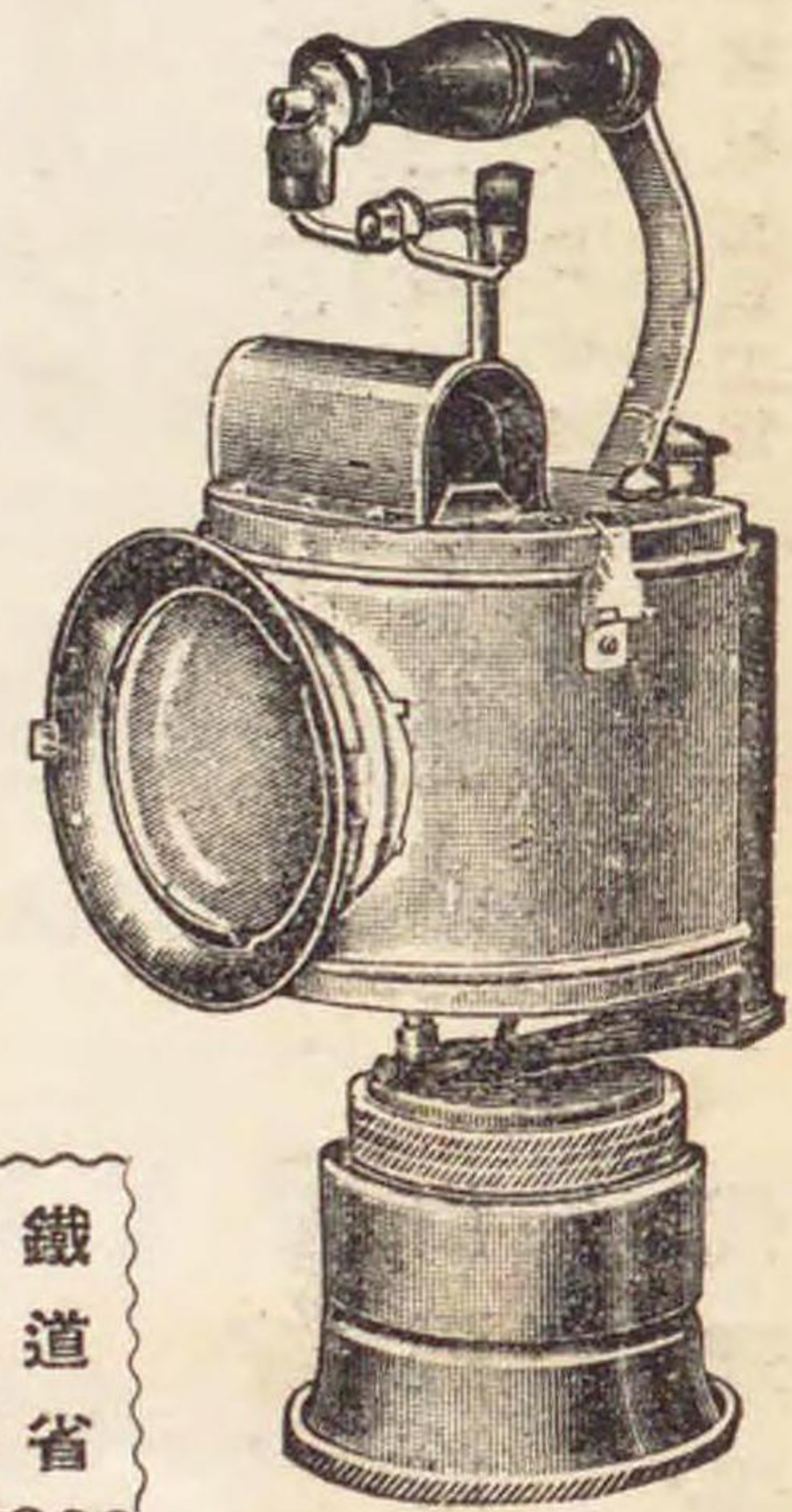
燈圖合しびつみ

(用使トイパーカ)

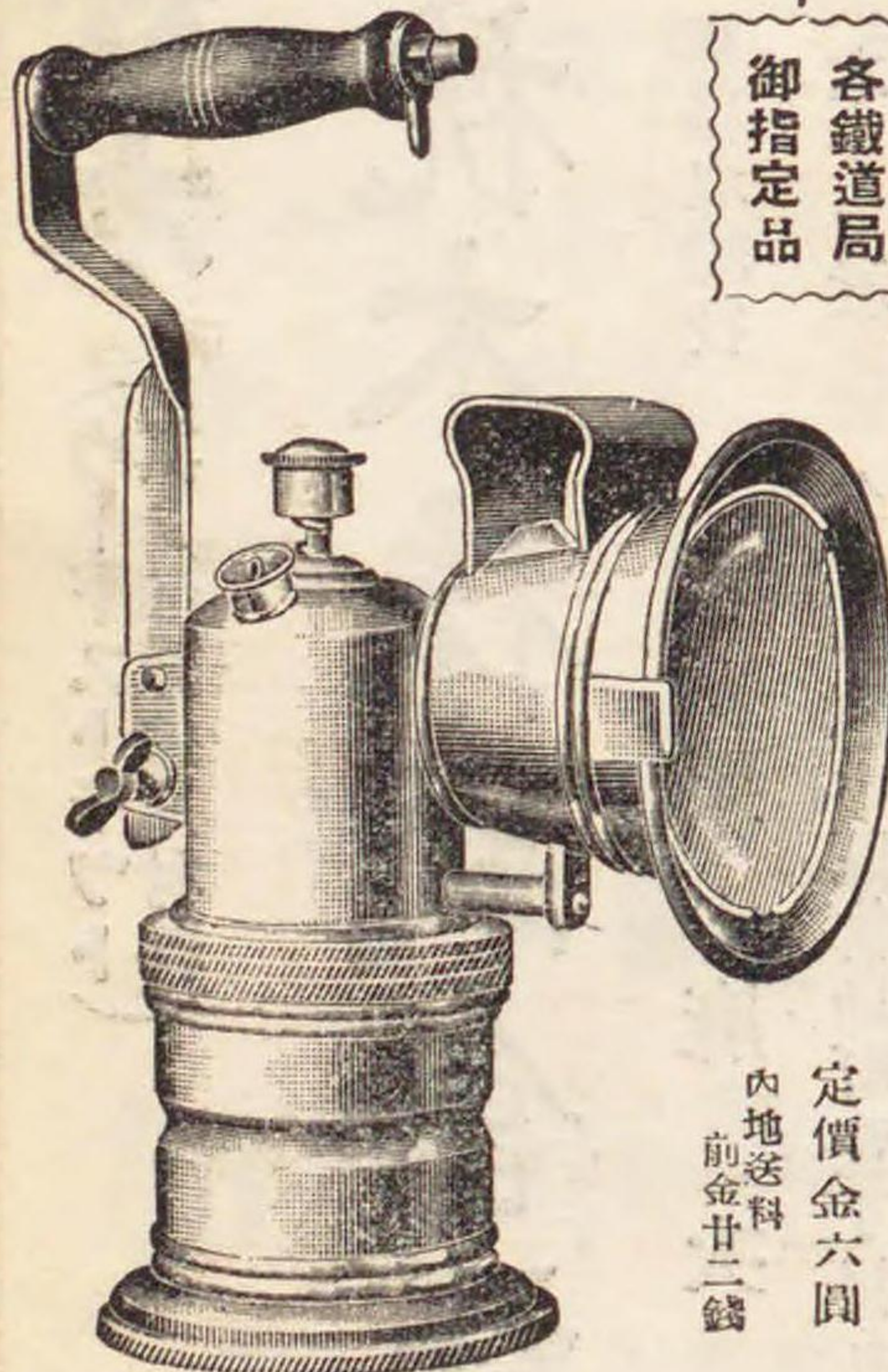


一、赤、青、白三段變色
一、光力強大で遠距離に
達し大雨、濃霧の場合
にも有効

定價 金拾壹圓也
内地送料前金三十八錢



鐵道省
各鐵道局
御指定品



標商錄登



用途

檢場車
現視察用
保線巡視用
暴風雨時用

特許第 二六六八一號
第五一八五七號
みつびし新提燈
(カーバイト使用)

定價金六圓
内地送料
前金廿二錢

座銀話電
番六四六三
番七四六三
番八四六三

社會名合村磯

元賣發造製

日丁一町村田區芝市京東

機行飛・船艦・車動自・車電・車汽

蒲 幌 卡 內 特 斯 馬 各 創 鐵 車
團 テン 張 式 毛 種 業 道 輛
各種諸材料 明治四十年 省指定工場 會社指定工場

案	新	ダブルスプリングシート (第一七八二七號) (第一四九二號) (第一七四三號)
鋼板バネ受シート (第一三八八三二號)	スポンチゴム入シート (第一四三三三號) (第一三九四六號) (第一四六六六號) (第一四六八三號)	
鋼棧バネ受シート (第一八七一〇二號)	エーヤークツション (第一七九一三〇號)	

所作製泉資合

一六二町上押島向區所本市京東 所業營京東
番二一三三番一九七 田墨話電
地番八目丁二西町嬌吾區島向市京東 場工京東
(前所留停車電)坂宮新田熱區南市屋古名 場工屋古名
番三〇五三南話電
地番八目丁五町江上澤區北市阪大 場工阪大
番三五四三東話電



有田鐵道株式會社上納 100 人乗ガソリン客車

客貨車、電車、ガソリン車並
 デイゼル客車機關車、車輪、車軸、
 轉轍器、轍叉、信號機、橋梁、
 鐵塔、電化工事、設計並製作

株式 **加藤** 會社

加藤車輛製作所

本社 大阪市港區田中元町一丁目

電話 西 3 4 5 番

鐵道省、電氣局
 諸會社、御指定

各種枕木

(ウハードストラット
 其ノ他鐵道用材料)



中央枕木株式會社

專務取締役

小栗麻次郎

本社

名古屋市中區都島町壹丁目九番地

電話南局(6)四八三五番

電信略號(チウ)又ハ(チ)

越美南線郡上八幡驛前

電話一六五番

高山線飛驒高山驛前

電話高山五四七番

東京市芝區白金三光町百八番地

電話高輪七一六一番

出張所

代理店

各枕木ハ直營伐木ニシテ弊社獨
 特ノ精選セル優良ナル製品而モ
 格安ニ正確ナル納期ニ供給ス

147
519

本工場

東京都品川區東大崎五丁目七番地

代表社員 **山本榮男**

電話高輪 (44) 953番 1102番

鐵道省・朝鮮・臺灣鐵道局
南滿洲鐵道會社御指定工場



専門製作

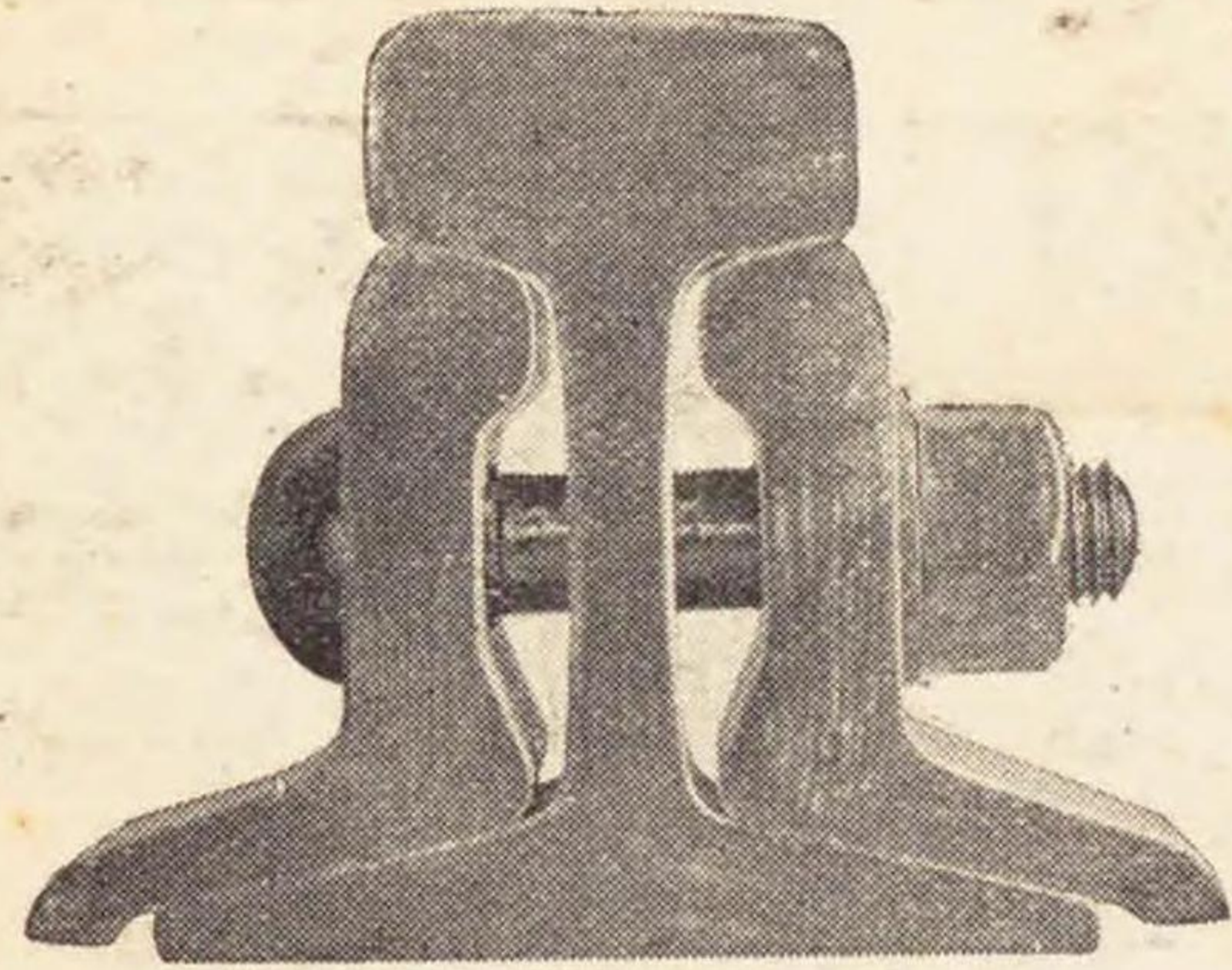
轉轍器。轍叉。

信號機。聯動機。標識。

スプリング各種

車輛用。機關車用
各種自動車用
船艦及諸機械用

鐵道用品一式



呈進報商

業營門專

各種レール。附屬品
轉車臺、分岐線。轉轍器、轍叉
チルド車輪。各種運搬車
軌條用工具類。杭木用レール

合資會社 五十嵐商店

出張所

本店

東京市日本橋區江戸橋三丁目五番地

電話日本橋(24)二五八・二五九・二六〇番
振替東京 二二三〇五九番
電信略號 (イ) 又は (イカ)

八幡市園田町一丁目五番地
電話八幡園六四番
札幌市北四條西二丁目一五番地

